



Peregrine | Get-Resources  
インストールと管理



© Copyright 2002 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems®, ServiceCenter®, FacilityCenter®, およびRemedy® Help Desk™は、Peregrine Systems, Inc.またはその子会社の登録商標です。

本製品は、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org>)、およびAdvantys (<http://www.advantys.com>)により開発されたソフトウェアを含みます。また、本製品には、Sun Microsystems, Inc.、Netscape Communications Corporation、Original Reusable Objects, Inc.、およびJean-Marc Lugin (個人)により開発されたソフトウェアも含まれています。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本製品に関する技術情報の請求、またはライセンスをお持ちの製品に関するマニュアル類の請求については、Peregrine Systemsのカスタマサポート ([support@peregrine.com](mailto:support@peregrine.com)) までお寄せください。

本マニュアルに関するご意見やご要望は、Peregrine Systems, Inc.の出版部 ([doc\\_comments@peregrine.com](mailto:doc_comments@peregrine.com)) までお寄せください。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン2.5に適用されます。

Get-Resources

Peregrine Systems, Inc.  
Worldwide Corporate Campus and Executive Briefing Center  
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130  
Tel 800.638.5231 or 858.481.5000  
Fax 858.481.1751  
[www.peregrine.com](http://www.peregrine.com)



# 目次

Get-Resourcesについて . . . . .	13
本マニュアルについて . . . . .	13
関連文書 . . . . .	14
本マニュアルの構成 . . . . .	14
本マニュアルで使用する表記法 . . . . .	14
<b>I. インストールおよび概要 . . . . .</b>	<b>17</b>
1. Get-Resourcesのインストール . . . . .	19
インストールの必要条件 . . . . .	20
ソフトウェア . . . . .	20
ハードウェア . . . . .	22
インストール前の配慮 . . . . .	22
WindowsでGet-Resourcesをインストールする . . . . .	22
UNIXでGet-Resourcesをインストールする . . . . .	23
2. 管理 . . . . .	25
Tomcatサーバを起動/停止する . . . . .	26
Tomcatのオプションパラメータを設定する . . . . .	26
シングルセッション用にTomcatを設定する . . . . .	26

Tomcatパラメータを永久的に設定する . . . . .	27
管理モジュールにアクセスする . . . . .	27
コントロールパネルを使用する . . . . .	28
導入バージョンのリストを表示 / 印刷する . . . . .	29
サーバのログを参照する . . . . .	29
設定ページを使用する . . . . .	32
パラメータを定義する . . . . .	33
スクリプトのステータスを確認する . . . . .	34
メッセージキューを表示する . . . . .	34
キューのステータスを表示する . . . . .	34
多言語用にシステムを設定する . . . . .	35
コンテンツタイプのエンコードを設定する . . . . .	35
ロケールコードを設定する . . . . .	36
通貨コードを設定する . . . . .	38
フォーム情報を表示する . . . . .	41
フォームの詳細を表示する . . . . .	42
ユーザ登録 . . . . .	44
パスワードの変更 . . . . .	45
ユーザセッションのログとモニタリング . . . . .	47
「usage.log」ファイルとは? . . . . .	47
ログ設定の定義 . . . . .	48
カスタマイズ機能 . . . . .	49
カスタマイズ機能のアクセス権限 . . . . .	49
カスタマイズ機能を使用する . . . . .	51
3. Peregrineポータルの使用 . . . . .	57
Get-Resourcesにログインする . . . . .	57
ユーザとしてログインする . . . . .	58
左枠を使用する . . . . .	58
Peregrineポータルをカスタマイズする . . . . .	59
コンポーネントを追加する . . . . .	59
レイアウトを変更する . . . . .	61
テーマを変更する . . . . .	63
II. Get-ResourcesとAssetCenter . . . . .	67
4. AssetCenterとの設定 . . . . .	69
Get-Resourcesアーキテクチャの概要 . . . . .	70
AssetCenterを設定する . . . . .	70
AssetCenterデモ用データベースを使用するためにGet-Resourcesを設定する . . . . .	70

既存のAssetCenterデータベースを使用するためにGet-Resourcesを設定する	71
[ 発注の自動作成 ] ワークフローを設定する	78
<b>[ 発注の自動作成 ]</b> ワークフローを無効にするには、以下の手順に従います。	78
AssetCenterデータベース接続のトラブルシューティング	79
<b>5. 管理とセキュリティ</b>	81
ユーザ登録と認証	81
ユーザ権限	82
AssetCenterでユーザ権限を設定する	82
サンプルプロファイル	84
<b>6. Get-Resources インタフェース</b>	87
サンプルユーザとしてGet-Resourcesにログインする	87
Get-Resources機能	88
AssetCenterカタログ	89
認証	90
特殊フィールド：cf_Description	91
AssetCenterワークフロー	91
[ セット商品の発注 ] ワークフロー	92
[ 依頼のルーティング ] ワークフロー	92
[ 依頼承認 ] ワークフロー	93
[ 発注の自動作成 ] ワークフロー	94
[ 依頼ステータス ] ワークフロー	94
<b>III. B2Bサーバ</b>	95
<b>7. B2B通信</b>	97
B2B通信の発展	97
B2Bプロセスの概要	98
カタログのストレージとアクセス	99
アイテムの選択	99
依頼承認と発注作成	99
発注の送信と受注	100
請求と発送	100
Peregrine SystemsのB2Bアーキテクチャ	100
<b>8. B2B用にGet-Resourcesを設定する</b>	103
B2BサーバのURLを初めて追加する	103
新しいB2BのURLを追加するには、以下の手順に従います。	104

既存のB2BサーバのURLを更新する . . . . .	104
既存のB2BサーバのURLを更新するには、以下の手順に従います。 . . . . .	104
<b>9. AssetCenterとGet-Resources . . . . .</b>	<b>105</b>
AssetCenter . . . . .	105
スクリプト . . . . .	106
ワークフロー . . . . .	107
データベースフィールド . . . . .	108
Get-ResourcesとGet2Connect.net . . . . .	108
アクセス権限 . . . . .	109
セキュリティ . . . . .	110
<b>10. カタログを理解する . . . . .</b>	<b>111</b>
サプライヤカタログ . . . . .	111
バイヤカタログ . . . . .	112
「カタログアイテムの取得」方法 . . . . .	113
「サーバスクリプト」方法 . . . . .	113
<b>11. 発注を理解する . . . . .</b>	<b>115</b>
処理 . . . . .	115
発注の検証 . . . . .	116
送信 . . . . .	116
ドキュメント形式 . . . . .	117
送信方法 . . . . .	117
キュー/送信プロセス . . . . .	117
ステータス . . . . .	117
<b>12. ShopDirectを理解する . . . . .</b>	<b>119</b>
ShopDirectを使う理由 . . . . .	119
必要条件 . . . . .	120
ShopDirectプロセス . . . . .	120
典型的なShopDirectセッション . . . . .	120
<b>13. B2B環境を設定する . . . . .</b>	<b>123</b>
Get-ResourcesのB2Bサービスに登録する . . . . .	124
請求先住所および連絡先情報を設定する . . . . .	125
請求先住所を設定/変更するには、以下の手順に従います。 . . . .	125
連絡先を変更するには、以下の手順に従います。 . . . .	125
<b>14. B2Bサイトを管理する . . . . .</b>	<b>127</b>

ShopDirect用にサプライヤを設定する . . . . .	128
サプライヤを設定するには、以下の手順に従います。 . . . . .	128
ShopDirectサイトへのアクセスを変更または削除する . . . . .	129
ShopDirectサイトへのアクセスを変更するには、以下の手順に従いま す。 . . . . .	130
新しいサプライヤサイトを要求する . . . . .	130
新しいサプライヤサイトを要求するには、以下の手順に従います。 . . . . .	130
カタログを取得/ダウンロードする . . . . .	131
カタログアイテムを取得/ダウンロードするには、以下の手順に従い ます。 . . . . .	132
発注を使用する . . . . .	133
発注を表示するには、以下の手順に従います。 . . . . .	133
請求書を使用する . . . . .	134
請求書を表示するには、以下の手順に従います。 . . . . .	134
B2Bドキュメントをトラッキングする . . . . .	135
<b>15. よく寄せられる質問 . . . . .</b>	<b>137</b>





# 図の一覧表

---

7.1. B2Bサーバシステムの概要 . . . . .	101
7.2. B2BサーバシステムとAlliance . . . . .	102
9.1. [ 依頼承認 ] ワークフロー . . . . .	107
9.2. [ 発注の自動作成 ] ワークフロー . . . . .	107
9.3. [ 発注をget2connect.netへ送信 ] ワークフロー . . . . .	108
13.1. B2Bサービスへの登録用ページ . . . . .	124
13.2. [ 従業員の検索 ] ページ . . . . .	126





# 表の一覧表

---

1.1. Windows . . . . .	20
1.2. Solaris . . . . .	21
1.3. Linux . . . . .	21



# Get-Resourcesについて

## 序文

Get-Resourcesは、Peregrine SystemsのEmployee Self-Service（従業員セルフサービス）ソフトウェアスイートであるGet-Itのアプリケーションです。Get-Resourcesを導入すると、ユーザはイントラネット経由で調達業務を行うことができますようになります。

Get-ResourcesはAssetCenterをバックエンドシステムとして使用しており、AssetCenterの製品カタログへのアクセスを提供します。Get-Resourcesは、購入依頼から始まり、ワークフローで管理する承認プロセス、発注そして受領までに至る、調達業務を処理します。Get-Resourcesには、AssetCenterのデモ用データベースが含まれています。AssetCenter用にGet-Resourcesシステムを設定する方法については、「[AssetCenterを設定する](#)」の節を参照してください。

Peregrine SystemsのB2B（Business to Business）製品と共にGet-Resourcesを使用すると、他のe-ビジネス企業やサプライヤネットワークとも、安全に商取引を行うことが可能になります。詳しくは、第3部「[B2Bサーバ](#)」を参照してください。

## 本マニュアルについて

本マニュアルは、Get-Resourcesを設定 / 管理する管理者を対象としています。本マニュアルを有効に利用するには、以下の実用的な知識が必要となります。

- XMLおよびECMAScript（またはJScript / JavaScript）

- お使いのPCハードウェアおよびオペレーティングシステムの取扱説明書、リファレンスマニュアル、およびその他の関連文書
- Tomcatに関するマニュアル（「...Tomcat/docs」ディレクトリに格納されています）
- AssetCenter

## 関連文書

AssetCenterの付属マニュアルを、本マニュアルと併せて参照してください。

## 本マニュアルの構成

本マニュアルは、以下の3部で構成されています。

- 第1部 - インストールと概要：Get-Resourcesのインストール方法、一般的な管理タスク、およびインタフェースの概要が解説されています。
- 第2部 - Get-ResourcesとAssetCenter：AssetCenterをバックエンドシステムとして使用する場合に、Get-Resourcesシステムを設定/管理する方法などが説明されています。
- 第3部 - B2Bサーバ：Get-ResourcesをPeregirne SystemsのB2B製品と使用する場合に、Get-Resourcesを設定/管理/使用する方法が説明されています。

## 本マニュアルで使用する表記法

本マニュアルに記載されているスクリーンショットは、あくまでサンプルとしてご覧ください。Get-Resourcesの画面では、「Classic」テーマが適用されています。

本マニュアルでは、以下の表記法を使用しています。

オブジェクト	例
ボタン	<b>[次へ]</b> をクリックします。
ファイル名	「login.asp」ファイル
スクリプトのサンプルまたはXMLコード	<pre>var msgTicket = new Message( "Problem" ); ... msgTicket.set( "_event", "epmc" );</pre> 省略記号 (...) は、スクリプトの例などで、本題とは無関連である部分を省略するために使用します。
マニュアルのタイトル	マニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』を参照してください。
メニューオプション	<b>[スタート/プログラムファイル]</b> を選択します。
キーボードのキー	<b>[ENTER]</b> キーを押します。







# インストールおよび概要

パート



# 1 | Get-Resourcesのインストール

本章では、Get-ResourcesをWindows環境およびUNIX環境でインストール/設定する方法を説明します。マニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』では、段階を追ってインストール手順が解説されています。

インストール作業では、以下のコンポーネントをインストールします。

- Java Runtime Environmentを含むJava 2 SDK Standard Edition v1.3.1\_01
- Tomcat 3.2.4アプリケーションサーバ
- Peregrine Open Application Architectureプラットフォーム（OAAプラットフォーム）とGet-Resources

Get-Resources 2.5は、以下のアプリケーションサーバもサポートします。

- WebSphere 4.0
- WebLogic 6.0 SP1
- JRun 3.1

詳しくは、カスタマサポートのWebサイト（[support.peregrine.com](http://support.peregrine.com)）で動作環境の表を参照してください。

---

 **重要項目:**

Tomcatの代わりに上記のアプリケーションサーバを使用する場合は、マニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』を参照して、Java 2 SDK (このバージョンが既にインストールされていない場合) とGet-Resourcesをインストールしてください。同マニュアルでは、アプリケーションサーバの設定方法も解説されています。

---

 **注意:**

AssetCenterは、Get-ResourcesのCDに含まれていません。AssetCenterのインストール方法については、AssetCenterの付属マニュアルを参照してください。

---

## インストールの必要条件

本節では、Get-Resourcesを適切にインストール/設定するために推奨される、必要最小限の動作環境を説明します。インストール作業を開始する前に、以下の節を通読し、必要なソフトウェアおよびハードウェアが備わっているかどうか確認してください。

---

 **注意:**

Get-Resources 2.5と共に提供されているOAAプラットフォームのバージョンは、他のOAAベースのアプリケーションと互換性がない可能性があります。インストール作業を開始する前に、カスタマサポートのWebサイト (support.peregrine.com) で動作環境の表を確認してください。

---

## ソフトウェア

表 1.1. Windows

オペレーティングシステム	Microsoft Windows NT Server (バージョン 4.0 SP4以上)、またはWindows 2000 Server
--------------	--

---

Webサーバ	Apache Server 1.3.20、またはMicrosoft IIS Server 4.0または5.0 (MicrosoftのWebサイトで入手可能)。Tomcatをアプリケーションサーバとして用いる場合、Apache Serverを使用されるようお勧めします。
AssetCenter (バックエンドシステム)	バージョン3.51以上のAssetCenterがインストールされている必要があります。Get-Resourcesは、AssetCenter 3.51、3.6、および4.1をサポートします。 <b>注意:</b> AssetCenter APIは、Get-Resourcesと同じシステムにインストールしなければなりません。ただし、AssetCenterデータベースについては、異なるシステムにインストールすることも可能です。従って、AssetCenterをインストールする際、完全インストールまたはカスタムインストール ( [ AssetCenter API ] オプションを選択する ) のいずれかを選択する必要があります。Get-Resourcesサーバ上にインストールされたAssetCenter API用に、データベースへの有効な接続を確立しなければなりません。Get-Resourcesは、「amdb.ini」ファイルを使ってAssetCenterデータベースに関する情報を獲得します。
Get-Resourcesの日本語バージョン	本バージョンを日本語バージョンのWindowsでインストールする必要があります。

表 1.2. Solaris

オペレーティングシステム	Solaris 2.7または2.8
Webサーバ	Apache 1.3.20
AssetCenter (バックエンドシステム)	バージョン3.51以上のAssetCenterのUNIXクライアントがインストールされている必要があります。Get-Resourcesは、AssetCenter 3.51、3.6、および4.1をサポートします。

表 1.3. Linux

オペレーティングシステム	Red Hat Linus 6.2または7.x
Webサーバ	Apache 1.3.20
AssetCenter (バックエンドシステム)	バージョン3.51以上のAssetCenterのUNIXクライアントがインストールされている必要があります。Get-Resourcesは、AssetCenter 3.51、3.6、および4.1をサポートします。

## ハードウェア

- 400 MHz以上のPentium、512 MB以上のRAM
- ディスク空き容量：おおよそ100 MB

## インストール前の配慮

インストール作業を開始する前に、以下の事項を確認してください。

- Java Runtime Environmentがインストールされていますか？Tomcatをアプリケーションサーバとして使用する場合、Java 2 SDK Standard Edition v1.3.1\_01が必要です。Java 2 SDK Standard Edition v1.3.1\_01は、インストールCDに含まれています。
- サポート可能なJavaアプリケーションサーバがインストールされていますか？Get-ResourcesのインストールCDには、Tomcat 3.2.4が含まれています。

### 注意:

サポート可能な別のアプリケーションサーバを使用する場合、本マニュアルを参照してGet-Resourcesをインストールした後、マニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』を参照してアプリケーションサーバの設定方法を把握してください。

- Get-Resourcesをデフォルトのディレクトリにインストールしない場合、代替りのインストール先を決めておきます。

## WindowsでGet-Resourcesをインストールする

完全インストールでは、以下の手順を順序どおりに実行します。

- 1 Java 2 SDK Standard Edition v1.3.1\_01をインストールする。
- 2 Tomcatをアプリケーションサーバとして使用する場合、Tomcat 3.2.4をインストールする。
- 3 Get-Resourcesをインストールする。
- 4 TomcatとApache間の接続を設定する。

上記の手順は、マニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』で詳しく解説されています。

## UNIXでGet-Resourcesをインストールする

完全インストールでは、以下の手順を順序どおりに実行します。

- 1 Java 2 SDK Standard Edition v1.3.1\_01 ( Java Runtime Environment ) をインストールする。
- 2 Tomcat 3.2.4アプリケーションサーバをインストールする。
- 3 Peregrine OAAプラットフォームとGet-Resourcesをインストールする。
- 4 追加の設定手順を実行する。
- 5 TomcatアプリケーションサーバとApache Webサーバ間の接続を確立する。

Get-Resourcesコンポーネントは、インストールCDを使ってインストールできません。インストール方法については、マニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』を参照してください。

### 注意:

AssetCenterのUNIXクライアントが、サーバ上に既にインストールされている必要があります。インストール方法については、AssetCenterの付属マニュアルを参照してください。AssetCenterのインストール時に、「amdb.ini」ファイルのインストール先を書き留めておいてください。





## 2 | 管理

本章では、Get-Resourcesシステムの管理に関する一般的な情報が記載されています。管理モジュールを使用するにあたり、本章をお読みください。

本章を通読した後、第2部「[Get-ResourcesとAssetCenter](#)」に進み、AssetCenterシステムに直接関連する管理タスクについて理解してください。

Get-Resourcesシステムを管理するための主要ツールは、管理モジュールです。管理モジュールでは、以下のタスクを実行できます。

- Get-Resourcesサーバとバックエンドサーバ間の接続をモニタリングする。
- Get-Resourcesサーバの全イベントを記録するサーバログを参照する。
- 設定を表示および変更する。
- **[スクリプトのステータス]** ページで、様々なECMAScript関数を開始 / 停止する。
- キューの内容を参照するために、メッセージキューを表示する。
- **[キューのステータス]** ページで、すべてのキューを参照する。
- データベースへ接続するために使うアダプタを設定する。

本章では、Tomcatの起動 / 停止方法、Tomcatのオプション変数の設定、ユーザの自動登録、パスワードの変更、実行中のフォームおよびスクリプトに関する情報の表示についても説明します。

## Tomcatサーバを起動 / 停止する

Tomcatを起動または停止するには、以下の手順に従います。

- 1 コマンドプロンプトを開きます。
- 2 「<tomcat>/bin」ディレクトリへ移動します。
- 3 以下のコマンドの1つを入力します。

実行するタスク	環境	コマンド
Tomcatの起動	Windows	startup
Tomcatの起動	UNIX	tomcat.sh start
Tomcatの停止	Windows	shutdown
Tomcatの停止	UNIX	tomcat.sh stop

## Tomcatのオプションパラメータを設定する

システムの最適化を図るためのTomcatパラメータが多数あります。これらのパラメータのリストおよび使用方法については、Java SDKの付属マニュアルを参照してください。Java SDKのREADMEファイル（Get-Resourcesのインストール用CDに含まれています）には、JAVA関連の文書に関する情報、およびSun Javaのインターネットサイトへのパス（現在のアドレス：java.sun.com）が記載されています。

### 重要項目:

Tomcatパラメータを変更する場合、開発環境で設定の変更をテストした後に、本番用のシステムで設定の変更を適用してください。以下の手順に従って、単一の作業セッション用に値を設定します。

## シングルセッション用にTomcatを設定する

シングルセッション用にTomcat変数を設定するには、以下の手順に従います。

- 1 Tomcatが実行中である場合は、停止します。
- 2 Tomcatを起動するために使用するMS-DOSコマンドプロンプトで、以下のシンタックスに従って定義を入力します。

```
set TOMCAT_OPTS xxxx
```

「xxxx」は、Javaの文書で定義された変数に当たります。

- 3 [ENTER] キーを押します。
- 4 Tomcatを起動します。  
設定した変数は、現行の作業セッションでのみ有効です。Tomcatを停止すると、変数はデフォルト値にリセットされます。

## Tomcatパラメータを永久的に設定する

Tomcatパラメータを永久的に変更するには、以下の手順で、お使いのシステムの環境変数に変数を追加します。

- 1 [システムプロパティ] ダイアログボックスを開き、[環境変数] タブを選択します。
- 2 パラメータとパラメータ値を、[システム変数] セクションまたは[ユーザー変数] に追加します。
- 3 [OK] をクリックします。

## 管理モジュールにアクセスする

Peregrineポータル管理者用ログインページから、管理モジュールにアクセスできます。管理モジュールを使用すると、Get-Resourcesの設定を定義できます。バックエンドシステムに接続せずに管理モジュールにアクセスできるように、デフォルトの管理者「Admin」が設定されています。システムを設定した後、ナビゲーションメニュー、またはホームページの[管理]タブから管理モジュールにアクセスできるようになります。

### 重要項目:

管理モジュールを使ってパラメータを変更すると、変更パラメータを保存するために、「local.xml」ファイルが「<application server>/webapps/baa/WEB-INF」ディレクトリに作成されます。Get-Resourcesを再インストールする場合、「local.xml」ファイルのコピーを作成し、Get-Resourcesインストール外に格納しておきます。これを実行しないと、再インストール時にパラメータ値が喪失することになります。

Peregrineポータル管理者用ログインページにアクセスするには、以下の手順に従います。

- 1 アプリケーションサーバ(例: Tomcat)が起動されていることを確認します。
- 2 Webブラウザのアドレスフィールドで、以下のアドレスを入力します。  
localhost/oa/admin.jsp

- 3 [ENTER] キーを押します。  
ポータル管理者用ログインページが表示されます。
  - 4 [名前] フィールドに「Admin」と入力します。パスワードを入力する必要はありません。
  - 5 [管理者としてログイン] をクリックします。  
[コントロールパネル] ページが表示されます。
- 管理モジュールでは、以下のアクティビティを使用できます。

- コントロールパネル：バックエンドシステムへの接続ステータスを確認できます。
- 導入バージョン：インストール時に導入された全パッケージのリストを表示 / 印刷できます。
- サーバのログ：Get-Resourcesサーバのイベントを表示します。
- 設定：「archway.ini」ファイルで設定を表示 / 変更できます。
- スクリプトのステータス：実行中のスクリプトを確認できます。またこの画面では、スクリプトを開始および停止できます。
- メッセージキュー：すべてのメッセージキューのリストを表示します。
- キューのステータス：キューの現行ステータス（使用可能、アンロック、中断）を確認できます。

## コントロールパネルを使用する

管理モジュールに初めてアクセスすると、[コントロールパネル] ページが表示されます。



このページでは、Get-Resourcesを使ってアクセスするデータベースへの接続ステータス、およびWebアプリケーションへの接続ステータスを確認できます。

**注意:**

このページに初めてアクセスすると、ターゲットが未定義であるため、全ターゲットのステータスは[切断]となっています。パラメータの設定方法については、本マニュアルの第2部を参照してください。

また、Archwayサブレットとバックエンドシステム用のアダプタ間の接続を、リセットすることも可能です。

[サーバのリセット]をクリックします。

ページ上部に、接続がリセットされたことを示すメッセージが表示されます。

## 導入バージョンのリストを表示 / 印刷する

[導入バージョン] ページでは、インストール時に導入された全パッケージが列挙されています。各パッケージのバージョンを確認することもできます。

導入バージョンのリストを参照するには、以下の手順に従います。

- 1 左枠で [導入バージョン] をクリックします。  
インストール済みのパッケージの一覧が表示されます。

アプリケーション	バージョン
AssetCenter Adapter	acadapter.2.2.1.34
Asset Center Workflow Display Applet	acworkflow.2.2.0.41
OAA Archway Servlet	archway.2.2.3.20
Peregrine Enterprise Portal Classic Theme	classitheme.2.2.0.61
OAA Core Application	core.2.2.3.15
Get-Resources	getresources.2.5.0.2
Mail Adapter	mailadapter.2.2.1.40
Peregrine Enterprise Portal	portal.2.2.3.33
ServiceCenter Adapter	scadapter.2.2.1.21

- 2 [印刷] をクリックしてリストを印刷します。

## サーバのログを参照する

[サーバのログ] ページでは、サーバイベントの履歴を確認できます。

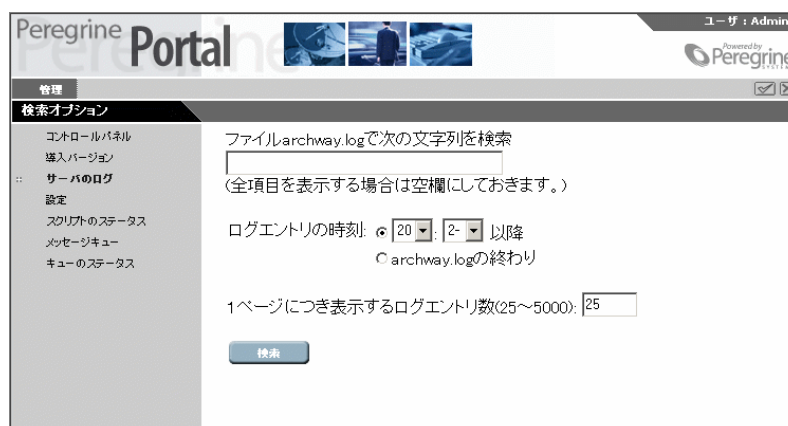
サーバのログを参照するには、以下の手順に従います。

- 1 アクティビティメニューで、[サーバのログ]を選択します。  
ログファイルのリストが表示されます。

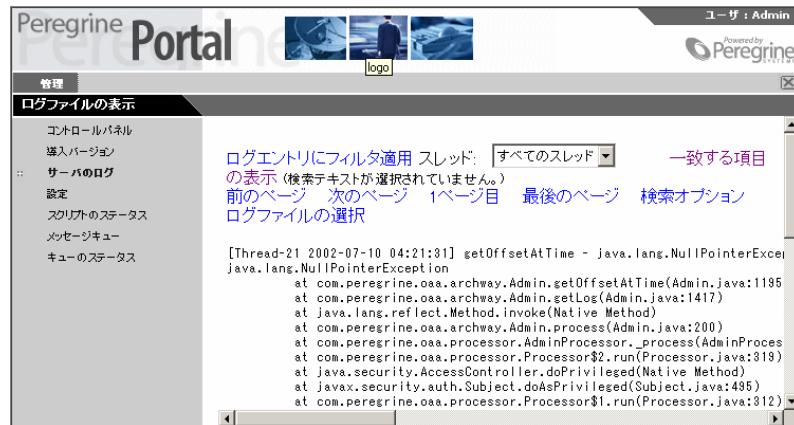


- 2 表示するログを選択してから、[ログファイルの選択]をクリックします。

検索フォームが表示されます。特定のログファイルを検索したり、特定の期間内で検索したりすることができます。また、表示するログエントリの行数を指定することも可能です。



- 3 選択条件を入力した後、**[ 検索 ]**をクリックします。  
検索結果が表示されます。



ログファイル画面の上部と下部に位置するリンクを使って、ログ内を移動します。**[ 検索オプション ]** ページ、または **[ ログファイルの選択 ]** ページに戻り、新規にログファイルを選択することもできます。

**[ ログエントリにフィルタ適用 ]** ドロップダウンリストを使用すると、スレッドID別のフィルタを適用できます。例えば、スクリプトポーラが定期的に行われている場合、特定のスレッド別のフィルタを適用すると、スクリプトポーラからのメッセージのみを表示できます。

## 設定ページを使用する

左枠で [設定] をクリックすると、現行のパラメータの設定が表示されます。



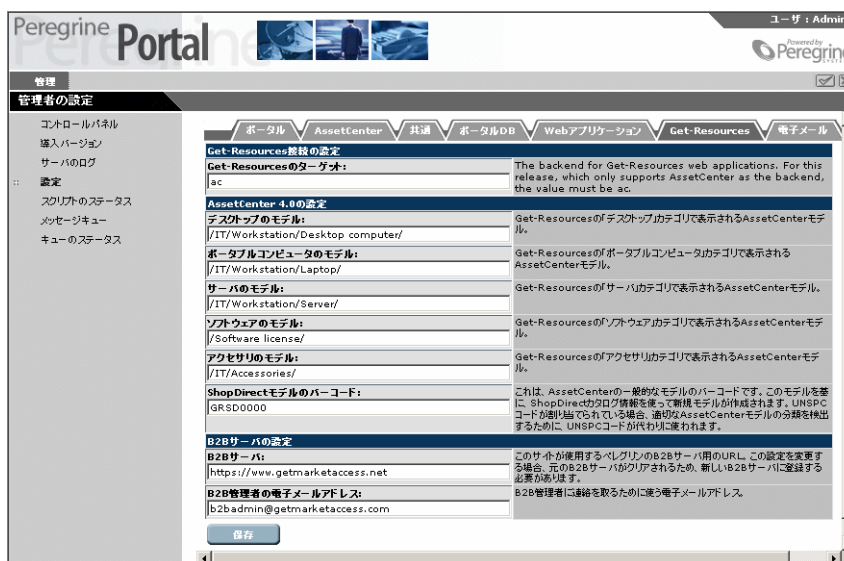
[設定] ページは、複数のタブから構成されています。Get-Resourcesでは、以下のタブが使用可能です。

- 共通
- 電子メール
- ポータルDB
- ポータル
- Webアプリケーション
- Get-Resources
- バックエンドシステムであるAssetCenter用のタブ

上記のタブに含まれているフィールドについては、それぞれのタブで説明されています。多数のフィールドには、大半のシステムに適用できるデフォルト値



が、既に入力されています。デフォルト値を変更すると、デフォルト値に設定し直すためのリンクが表示されます。



管理モジュールの [ 設定 ] ページを使って変更を実行すると、「local.xml」ファイルが、「C:<application server>\webapps\baa\WEB-INF」ディレクトリ内に作成されます。プロパティ設定の変更事項はすべて、このファイルに保存されます。「local.xml」ファイルに保存されているプロパティを変更した場合は、Tomcatを再起動する必要があります。

#### 重要項目:

[ 設定 ] ページでパラメータを変更した後に、Get-Resourcesを再インストールする必要がある場合、「local.xml」ファイルのコピーを作成し、Get-Resourcesインストール外に格納しておきます。これを実行しないと、再インストール時にパラメータ値が喪失することになります。インストールが完了した後、コピーを「WEB-INF」ディレクトリに戻します。

## パラメータを定義する

パラメータを定義するには、以下の手順に従います。

- 1 変更する設定事項を選択し、新しいパラメータを入力します。

 **注意:**

パラメータを変更した後にデフォルトの設定に戻る場合、リセットするパラメータの説明領域に表示される **[デフォルトにリセットする場合はここをクリックしてください]** リンクをクリックします。パラメータのデフォルト値を変更した場合にのみ、このリンクは表示されます。

- 2 **[設定]** ページの下部にある **[保存]** ボタンをクリックします。  
**[コントロールパネル]** ページが表示されます。
- 3 **[サーバのリセット]** をクリックします。  
ページ上部に、サーバがリセットされたことを示すメッセージが表示されま  
す。

## スクリプトのステータスを確認する

実行中のスクリプトの名前およびステータスは、**[スクリプトのステータス]** ページで確認できます。スクリプトをクリックすると、スクリプトを有効または無効にできます。

## メッセージキューを表示する

転送待ちのデータを含むキューがある場合、メッセージキューが表示されます。

## キューのステータスを表示する

メッセージキューのステータスを確認または変更するには、次の手順に従いま  
す。

- 1 アクティビティメニューで **[キューのステータス]** をクリックします。

- 2 **[ キュー内の操作の切り替え ]** をクリックすると、キューのステータスを「使用可能およびアンロック」状態から「中断」状態に変更できます。



## 多言語用にシステムを設定する

本節では、英語以外の言語で、Get-Resourcesを使用するための設定方法を説明します。また、サポート可能な国コードおよび通貨コードの表も記載されています。

## コンテンツタイプのエンコードを設定する

コンテンツタイプのエンコードとは、特定の文字を数値にマッピング（関連付け）することを指します。文字セットは、ある言語で使われるすべてのアルファベットおよび記号を含んでいます。

Get-Resourcesでは、以下の設定が使用可能です。

- 米国およびヨーロッパ：ISO-8859-1（Windows用のデフォルト値）
- 日本語（Windowsのみ）：Shift\_JIS
- ポーランド語（Windowsのみ）：ISO-8859-2

**エンコードを設定するには、以下の手順に従います。**

- 1 Get-Resourcesに管理者として接続し、管理モジュールをクリックします。左枠で**[ 設定 ]** ページを選択します。

- 2 **[共通]** タブで、**[コンテンツタイプのエンコード]** フィールドの設定を必要に応じて変更します。
- 3 フォームの下部にある **[保存]** ボタンをクリックします。
- 4 管理モジュールのコントロールパネルで、サーバをリセットします。

## ロケールコードを設定する

ユーザがGet-Resourcesにログインすると、ログインプログラムは、ブラウザで指定された優先言語を検出し、優先言語がサポート可能かどうかを確認します。サポート可能である場合、Get-Resourcesは同言語で表示されます。

サポートされていない言語の場合、デフォルトの言語が使用されます。デフォルトの言語は、管理モジュールの **[ロケール]** フィールドで指定されています。このフィールドに入力されている最初の言語が、デフォルトの言語となります。

Get-Resourcesでは、以下の言語がサポートされます。

言語	国コード
英語	en
フランス語	fr
ドイツ語	de
イタリア語	it
日本語	ja
ポーランド語	pl
スペイン語	es

ロケールコードを設定するには、以下の手順に従います。通貨コードを設定する場合も、同じ手順に従ってください。

**使用言語を変更するには、以下の手順に従います。**

- 1 管理モジュールの **[設定]** ページを開きます。
- 2 **[ロケール]** フィールドで、使用する言語に対応する、国コードを入力します。

**注意:**

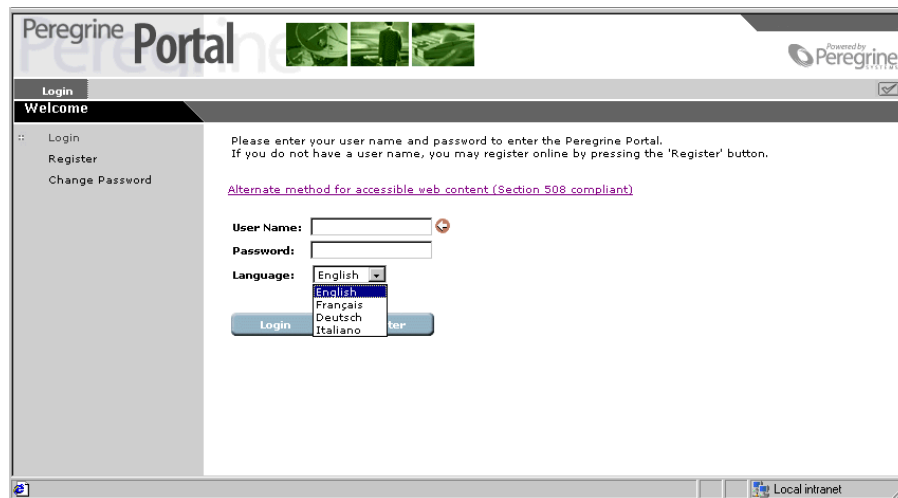
ユーザが使用言語をドロップダウンリストから選択できるようにするためには、**【ロケール】**フィールドの言語リストに英語(en)を含めます。英語に加えて、使用する言語すべてを、カンマ(,)で区切って指定します。以下の例では、英語、フランス語、ドイツ語およびイタリア語ロケールを使用します。



- 3 **【設定】**ページの下部にある**【保存】**ボタンをクリックします。  
**【コントロールパネル】**ページが表示されます。
- 4 **【サーバのリセット】**をクリックして、バックエンドシステムへの接続をリセットし、新規情報をインポートします。  
**【ロケール】**フィールドで、言語を1つしか指定していない場合、全情報が指定言語で表示されます。

複数の言語を指定した場合は、ログイン画面が英語で表示され、**【Language】**フィールドのドロップダウンリストから、希望する言語を選択できます。バックエンドシステムが、Get-Resourcesの使用言語と異なる言語で設定されている

場合、バックエンドシステムからのデータは、バックエンドシステムの言語で表示されます。



## 通貨コードを設定する

以下の表は、サポート可能な通貨に対応するISOコードを示しています。ISOコードは、管理モジュールの [ 設定 ] ページの [ 通貨 ] フィールドに入力します。

通貨コード	通貨名
ALL	アルバニアレク
ARP	アルゼンチンペソ
ATS	オーストリアシリング
AUD	オーストラリアドル
BEF	ベルギーフラン
BHD	バーレーンディナール
BOB	ボリビアボリビアノ
BRR	ブラジルレアル
BYR	ベラルーシルーブル
CAD	カナダドル
CHF	スイスフラン
CLP	チリペソ
CNY	中国元
COP	コロンビアペソ
CRC	コスタリカコロン
DEM	ドイツマルク
DKK	デンマーククローネ
DOP	ドミニカペソ
DZD	アルジェリアディナール
ECS	エクアドルスクレ
EEK	エストニアクルーン
EGP	エジプトポンド
ESP	スペインペセタ
EUR	ユーロ（オーストリア、ベルギー、ドイツ、スペイン、フィンランド、フランス、アイルランド、イタリア、ルクセンブルグ、オランダ、ポルトガル、ギリシャ）
FIM	フィンランドマルッカ
FRF	フランスフラン
GBP	英ポンド
GTQ	グアテマラケツァル
HKD	香港ドル
HNL	ホンジュラスレンピラ
HUF	ハンガリーフォーリント
IEP	アイルランドポンド
ILS	イスラエルシェゲル
ITL	イタリアリラ
JOD	ヨルダンディナール
JPY	日本円
KRW	韓国ウォン
KWD	クウェートディナール

通貨コード	通貨名
LBP	レバノンポンド
LTL	リトアニアリタス
LUF	ルクセンブルグフラン
LVL	ラトビアラット
LYD	リビアディナ - ル
MAD	モロッコディルハム
MKD	マケドニアデナール
MXP	メキシコペソ
NIO	ニカラグアコルドバオロ
NLG	オランダギルダ
NOK	ノルウェークローネ
NZD	ニュージーランドドル
OMR	オマーンリアル
PAB	パナマバルボア
PEN	ペルーヌエボソル
PLZ	ポーランドズロティ
PTE	ポルトガルエスクード
PYG	パラグアイグアラニ
QAR	カタールリアル
ROL	ルーマニアレウ
RUR	ロシアルーブル
SAR	サウジアラビアリアル
SDD	スーダンディナール
SEK	スウェーデンクローナ
SIT	スロベニアトール
SKK	スロバキアコルナ
SVC	エルサルバドルコロン
SYF	シリアポンド
THB	タイバーツ
TND	チュニジアディナ - ル
TRL	トルコリラ
TWD	台湾ドル
UAH	ウクライナグリブナ
USD	米ドル
UYU	ウルグアイペソ
VEB	ベネズエラボリバル
YER	イエメンリアル
YUM	ユーゴスラビア新ディナール
ZAR	南アフリカランド



日付と通貨はすべて、ユーザの言語で表示 / 編集されます。カレンダーでは、各曜日はユーザの言語に訳されています。週の第1日目は、ユーザのロケールに応じて決まります。

通貨は、適切な通貨記号と少数点表記法を使って表示されます。ただし、小数点と千の区切りは、表示中の通貨ではなく、現在選択されている言語に応じて設定されます。例えば、フランス語インタフェースの場合、米ドルの金額は「\$1 234,00」と表示されます。同様に、ドイツ語インタフェースでは「\$1.234,00」、英語インタフェースでは「\$1,234.00」と表示されます。

## フォーム情報を表示する

管理モジュールを使用すると、現在のフォームの場所とファイル名を表示するように、Get-Resourcesフォームを設定できます。

### 注意:

Peregrine Sysytemsは、Peregrine Systemsのカスタマサポートからの勧告がない限り、本節の設定作業を実行しないようお勧めします。これを実行すると、アプリケーションの性能に影響が及ぶ可能性があります。

フォーム情報を表示するには、以下の手順に従います。

- 1 管理モジュールで、[設定]をクリックします。
- 2 [フォーム情報]フィールドで、[はい]を選択します。



The screenshot shows the 'Peregrine Portal' administration interface. The user is logged in as 'Admin'. The 'Management' section is active, and the 'Administrator Settings' page is displayed. The 'Forms Information' field is set to 'Yes' (はい).

設定項目	現在の値	説明
標準出力にログ:	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	すべてのログメッセージとエラーメッセージは指定されたログファイルに送信されます。このオプションは、アプリケーションサーバの標準出力ストリームにメッセージを送信します。デフォルトにリセットする場合はここをクリックしてください。[はい]
強制宣言のデバッグ:	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	このオプションを[はい]に設定すると、スクリプトのデバッグに關する追加情報がログに記録されます。
デバッグ情報の記録:	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	[はい]を選択すると、サーバのトラブルシューティングに役立つログ情報が作成されます。
スクリプトのデバッグ:	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	有効にすると、スクリプトスケーマは呼び出されるたびに再度解析されます。プロダクションモードではこのオプションをオフにしてください。
フォーム情報:	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ	[はい]を選択すると、Webアプリケーションの機能およびカスタマイズ作業を補助するために、フォーム情報が各画面に表示されます。
ログファイル:	archwav.log	ログファイルが格納されているフォルダへの完全パスを入力します。

- 3 ページの下部にある [保存] ボタンをクリックします。  
[コントロールパネル] ページが表示されます。

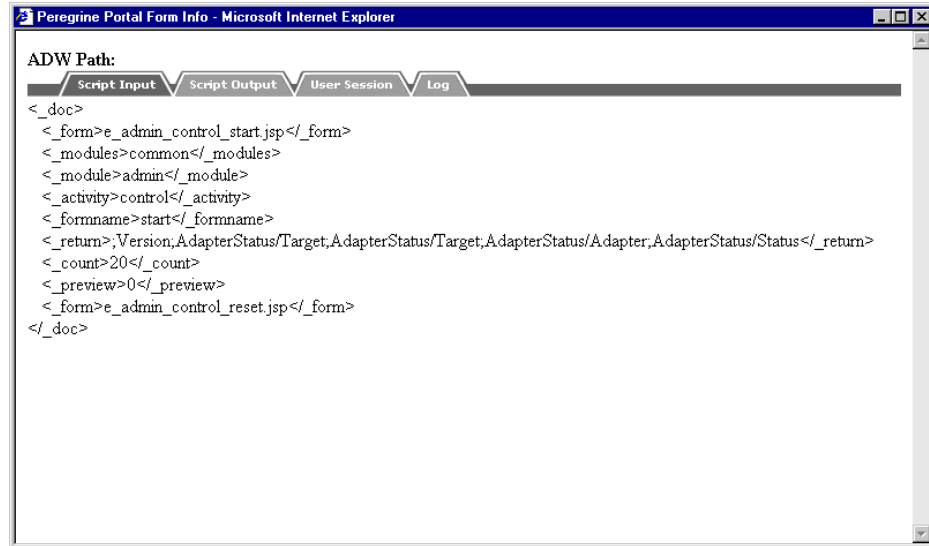
- 4 **[サーバのリセット]** をクリックします。  
各フォームの上部にフォーム名が表示されます。



## フォームの詳細を表示する

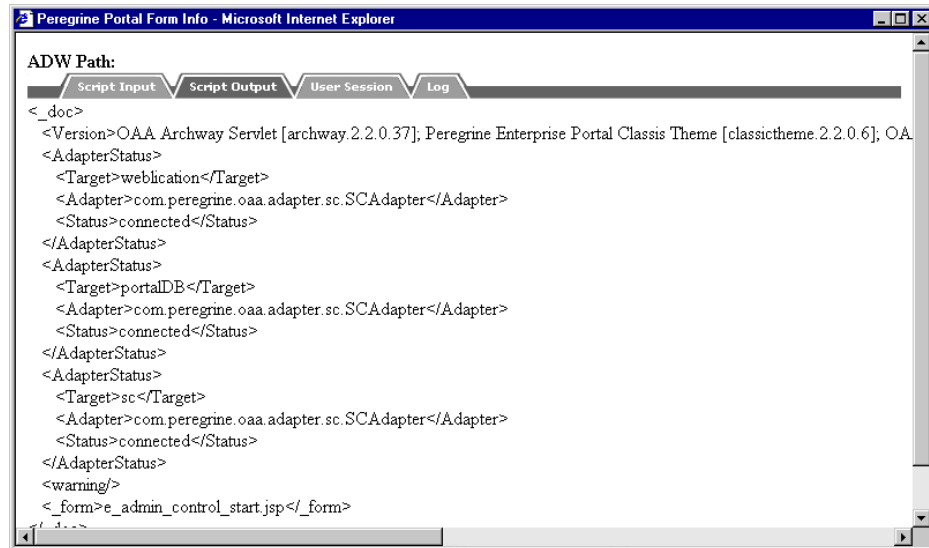
現在のフォームに関する詳細情報を表示することも可能です。フォームの右上にある **[フォーム関連情報の表示]** ボタンをクリックすると、以下のタブを含むウィンドウが表示されます。

- Script Input : バックエンドシステムに要求を送信するスクリプト



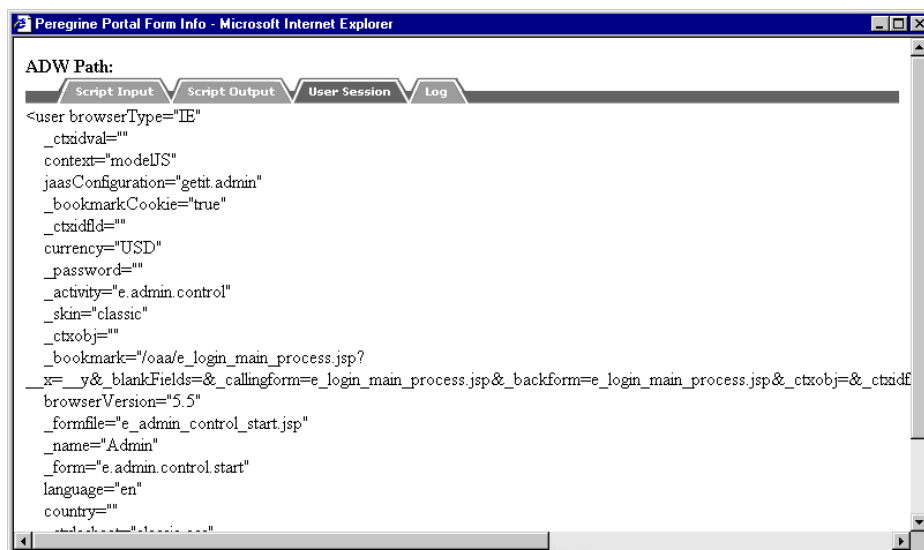
```
ADW Path:
Script Input
Script Output
User Session
Log
<_doc>
<_form>e_admin_control_start.jsp</_form>
<_modules>common</_modules>
<_module>admin</_module>
<_activity>control</_activity>
<_formname>start</_formname>
<_return>;Version;A.adapterStatus/Target,A.adapterStatus/Target,A.adapterStatus/A.adapter,A.adapterStatus/Status</_return>
<_count>20</_count>
<_preview>0</_preview>
<_form>e_admin_control_reset.jsp</_form>
</_doc>
```

- Script Output : 情報要求を受信した、バックエンドシステムが返す情報



```
ADW Path:
Script Input
Script Output
User Session
Log
<_doc>
<Version>OAA Archway Servlet [archway.2.2.0.37]; Peregrine Enterprise Portal Classis Theme [classictheme.2.2.0.6]; OA
<A.adapterStatus>
<Target>weblication</Target>
<A.adapter>com.peregrine.oaa.adapter.sc.SCAadapter</A.adapter>
<Status>connected</Status>
</A.adapterStatus>
<A.adapterStatus>
<Target>portalDB</Target>
<A.adapter>com.peregrine.oaa.adapter.sc.SCAadapter</A.adapter>
<Status>connected</Status>
</A.adapterStatus>
<A.adapterStatus>
<Target>sc</Target>
<A.adapter>com.peregrine.oaa.adapter.sc.SCAadapter</A.adapter>
<Status>connected</Status>
</A.adapterStatus>
<warning/>
<_form>e_admin_control_start.jsp</_form>
```

- User Session : 現行のユーザセッションに関する詳細 (ブラウザの種類、バックエンドシステムのバージョン、現在のユーザ用のアクセス権限など)



- Log : フォームを実行するためにスクリプトが実行したアクションのログ

## ユーザ登録

ユーザがバックエンドシステムで未登録である場合、ユーザ自身が登録作業を実行できます。登録すると、新規ユーザアカウント (基本ログイン権限を含む) がバックエンドシステム内に作成されます。詳しくは、マニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』を参照してください。

**ログイン画面で登録するには、以下の手順に従います。**

- 1 左枠で [登録] をクリックします。

- 表示されるフォームで、各欄に情報を入力します。矢印のついた最初の4フィールドは、必須フィールドです。

The screenshot shows the 'Peregrine Portal' user registration page. The page has a header with the logo and 'Powered by Peregrine'. Below the header is a navigation bar with 'ログイン' and 'ユーザー情報'. The 'ユーザー情報' section is active, showing a sidebar with 'ログイン', '登録', and 'パスワードの変更'. The main content area contains a registration form with the following fields: '名' (Name) with '加納', '姓' (Surname) with '弥生', 'ログイン名' (Login Name) with 'jkanou', '電子メールアドレス' (Email Address) with 'jkanou@mycomp.ai', and '電話番号' (Phone Number) with '03-5696-1234'. A '登録' (Register) button is located below the form. A small text block above the form explains that new users can register online and that a password is required for account creation, which will be emailed to the user. A note states that account creation requires an email address from the approved company.

- 【登録】**をクリックします。  
新規ユーザが登録されたことを示すメッセージが表示されます。パスワードは、アカウントの作成後に電子メールで送信されます。パスワードを変更する方法については、本章の「**パスワードの変更**」の節を参照してください。
- 左枠で**【ログイン】**をクリックして、ログイン画面にアクセスします。

## パスワードの変更

ログイン画面で、パスワードを容易に変更することができます。  
**パスワードを変更するには、以下の手順に従います。**

- Peregrineポータル**の【ようこそ】**ページを表示します。

- 2 左枠で **[パスワードの変更]** をクリックします。

Peregrine Portal

Powered by Peregrine

ログイン

ようこそ

ログイン  
登録  
パスワードの変更

Peregrineポータルにアクセスするためには、ユーザー名とパスワードを入力してください。  
ユーザーをお持ちでない場合は、[登録] ボタンをクリックするとオンライン登録できます。

アクセシビリティオプション(508案に準拠する)

ユーザー:

パスワード:

ログイン 登録

- 3 表示されるフォームで、ユーザログイン名と現在のパスワードを入力します。

Peregrine Portal

Powered by Peregrine

ログイン

パスワードの変更

ログイン  
登録  
パスワードの変更

既存のユーザー名とパスワードを入力した後に、新しいパスワードを入力してください。

ユーザー:

現在のパスワード:

新しいパスワード:

新しいパスワードの再入力:

パスワードの変更 戻る

- 4 新しいパスワードを入力し、2番目のフィールドにこのパスワードを再度入力して確認します。
- 5 **[パスワードの変更]** をクリックします。  
パスワードが変更されたことを示すメッセージが表示されます。

## ユーザセッションのログとモニタリング

ユーザログインの記録は、アプリケーションサーバのインストールの「bin」ディレクトリ内の「usage.log」ファイルに格納されます。このファイルを使うと、使用中のアプリケーションを確認したり、特定のアプリケーションへの1日当たりのアクセス件数を確認したりできます。

### 「usage.log」ファイルとは？

以下の例では、「usage.log」ファイルの一部を示しています。

```
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:53:21 +0000] "GET portal/portal/home/e_portal_home_start.jsp HTTP/1.0" 200 0
```

```
usage.log - Notepad
File Edit Search Help
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:50:15 +0000] "GET portal/portal/home/e_portal_home_s
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:51:28 +0000] "GET resources/request/createnew/e_requ
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:53:16 +0000] "GET common/logout/main/e_logout_main_a
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:53:21 +0000] "GET portal/portal/home/e_portal_home_s
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:54:10 +0000] "GET resources/request/loadcart/e_reque
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:55:18 +0000] "GET studio/docExplorer/fieldlookup/e_d
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:55:56 +0000] "GET common/logout/main/e_logout_main_a
localhost - Tossi [02/Mar/2002:14:56:01 +0000] "GET portal/portal/home/e_portal_home_st
localhost - Tossi [02/Mar/2002:14:56:05 +0000] "GET resources/status/search/e_status_se
localhost - Tossi [02/Mar/2002:14:57:49 +0000] "GET common/logout/main/e_logout_main_a
localhost - Valentine [02/Mar/2002:14:57:54 +0000] "GET portal/portal/home/e_portal_hom
localhost - Valentine [02/Mar/2002:14:58:01 +0000] "GET resources/approve/search/e_appr
localhost - Valentine [02/Mar/2002:14:58:15 +0000] "GET common/logout/main/e_logout_mai
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:58:19 +0000] "GET portal/portal/home/e_portal_home_s
localhost - Hartke [02/Mar/2002:14:58:22 +0000] "GET resources/approve/search/e_approve
```

ログイン1件につき1行が記録されます。1ユーザセッション内では、使用したモジュールごとに1行が記録されます。

以下の表は、ログエントリの各要素の意味を説明しています。

リモートホスト	Rfc931	ユーザのログイン	日付	要求	ステータス	バイト
localhost	-	Hartke	[02/Mar/2002: 14: 53:21 +0000]	"GET portal/portal/home/e_portal_home_start.jsp HTTP/1.0"	200	0

テーブルの列の説明は、以下のとおりです。

- **リモートホスト**：リモートホスト名またはIPアドレス（DNSホスト名が使用不可能または未提供である場合）
- **Rfc931**：ユーザのリモートログイン名。この情報は必要ではないため、常にダッシュ記号が表示されます。
- **ユーザのログイン**：Get-Resourcesにログインするために認証されたユーザ名
- **日付**：要求の日付と時刻
- **要求**：ユーザがアクセスしたモジュール。「GET」パラメータの最初の部分が、モジュール名を示します。この例では、ユーザは「portal」（ログインスクリプトの場所）モジュールにアクセスしました。
- **ステータス**：クライアントに返されたHTTP応答コード。この値は常に「200」です（有効な要求）。
- **バイト**：転送されたバイト数。この情報は必要ではないため、常に0が表示されます。

## ログ設定の定義

「usage.log」ファイルの設定を定義するには、管理モジュールの【設定】ページを使用します。【共通】タブの【システムの使用ログ】セクション内のフィールドを使用します。

使用ログは、ログファイルエントリのアーカイブを毎日作成するように設定されています。ログファイルエントリは、以下の設定内容に従って、Zipファイルに保存されます。

- **ログファイルのアーカイブ時刻**：ログファイルをZipファイルにアーカイブする時刻を、次のように入力してください（アーカイブを省く場合は空欄にします）。「hh:mm:ss」または「hh:mm」。デフォルトは、00:00です。
- **アーカイブする日数**：ログファイルのアーカイブで保存する日数を入力します。デフォルトは、31日です。

デフォルトでは、使用ログの報告が毎月作成されるように設定されています。



以下の図は、[システムの使用ログ]セクションを示しています。



## カスタマイズ機能

カスタマイズ機能を使用すると、手動でコードを変更/コンパイルすることなく、アプリケーション画面をカスタマイズすることが可能になります。Get-Resourcesでは、依頼モジュールのフォームでカスタマイズ機能を使用できます。フォームでカスタマイズ機能が使用可能である場合、画面の右上にスパナ型のアイコンが表示されます。

## カスタマイズ機能のアクセス権限

カスタマイズ機能へのアクセス権限を付与または拒否するには、管理タスクをいくつか実行する必要があります。

## カスタマイズの階層

カスタマイズ機能の設定は、ユーザ権限の階層に基づいて定義されます。一般的には、管理者が様々な画面のコンテンツと機能を設定するためにカスタマイズ機能を使用し、標準/デフォルト設定を全ユーザに適用します。多くの企業では、この種のカスタマイズ機能のみが許可されています。また、企業内の異なるユーザグループに対して、特定の設定を適用することも可能です。例えば、IT課のユーザの製品画面では、他の部署のユーザの画面と比べてより詳細な情報が表示されるように設定できます。

さらに、企業レベルおよび部署レベルで適用されるデフォルトのカスタマイズ事項に加えて、個人のユーザが自分の画面をカスタマイズすることを許可することも可能です。

カスタマイズ機能の階層は、各ユーザがシステムにログインする際に呼び出されるECMAスクリプトにより定義されています。スクリプトは、各ユーザ用の階層を示す文字列を返します。例えば、IT課の社員「Hartke」の場合、ユーザの階層は以下のように定義されます。

```
/admin/IT/Hartke
```

この例でユーザ「Hartke」は、管理レベルで定義されているカスタマイズ機能の設定に加え、IT課レベルで定義されている設定に対してもアクセスできます。また、個人の設定は、ユーザ「Hartke」のレベルで保存されます。

デフォルトのスクリプト設定は、「personalize.getHierarchy」です。このスクリプトは、2レベルのカスタマイズ機能を定義します。

- admin : このレベルは、「getit.admin」権限または「getit.personalization.admin」権限を持つユーザに適用されます。
- /admin/<user> : このレベルは、全ユーザに適用されます。「/admin」レベルで定義されたすべての設定が継承されます。新たな変更事項は、各ユーザ用に別々に保存されます。

「personalize.getHierarchy」スクリプトを調整すると、必要に応じてデフォルト設定を変更できます。

## ユーザのカスタマイズ権限

カスタマイズ機能の内容は、ユーザ権限の種類に応じて異なります。ユーザ権限は、以下のように分類できます。

getit.personalization : ユーザは、「カスタマイズ機能を使用できるエンドユーザ」として分類されます。これは、全ユーザに対して定義されているデフォルト設定です。「personalizeaccess」設定で以下の値の1つを選択すると、エンドユーザのアクセス権限を定義できます。

- 無効 : エンドユーザは、管理者が指定したデフォルトのカスタマイズ設定のみを参照できます。エンドユーザは変更する権限を持ちません。
- 有効 : エンドユーザは、デフォルトのカスタマイズ設定を継承します。また、自分の画面でフィールドを追加 / 削除できます。
- 制限付き : エンドユーザは、デフォルトのカスタマイズ設定を継承し、変更事項を適用できます。ただしエンドユーザは、管理者のデフォルトのカスタマイズ設定に含まれているフィールドにのみ限り、変更することができます。エンドユーザは、読取り専用のフィールドを、編集可能に変更することはできません。

getit.personalization.admin : ユーザは、「管理者」として分類され、以下のような特別な権限が付与されます。

- カスタマイズ機能で、更新 / 作成 / 削除処理が使用可能かどうかを指定する権利
- 全ユーザが継承する設定を定義する権利

## カスタマイズ機能用のデータベース

カスタマイズ設定は、データベースリポジトリ内に保存され、ユーザがシステムにログインする際に動的に処理されます。保存作業は、「weblication」と呼ばれるアダプタターゲットを使って実行されます。

カスタマイズ機能を有効にするためには、管理モジュールの設定ページにある【**アダプタ**】フィールドで、「weblication」ターゲットを有効なアダプタにマッピングする必要があります。設定ページの詳細については、「**設定ページを使用する**」の節を参照してください。

この結果、カスタマイズ設定の保存はACアダプタにマッピングされ、データはAssetCenterデータベースに保存されることになります。

スキーマは、AssetCenterの【amOption】テーブル（「personalize」形式のOptSectionキーを含む）へマッピングされています。カスタマイズ設定をあるデータベースから別のデータベースへ移動する場合、設定レコードを【amOption】テーブルから出力してから、ターゲットシステムへインポートします。

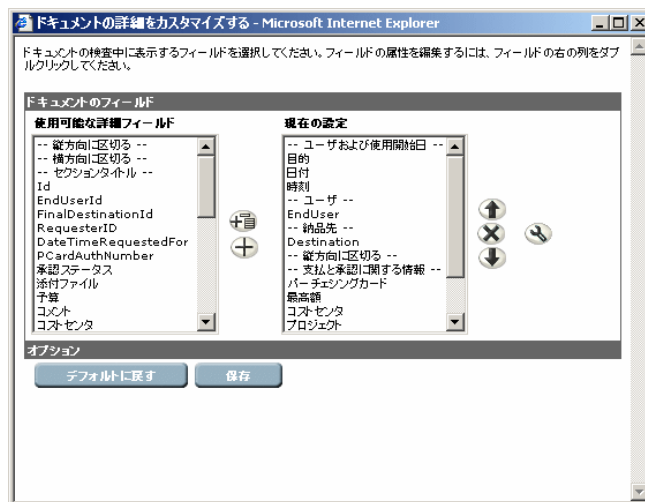
## カスタマイズ機能を使用する

インタフェースの右上にスパナアイコンが表示されている場合、フォームをカスタマイズできます。



フォームをカスタマイズするには、以下の手順に従います。

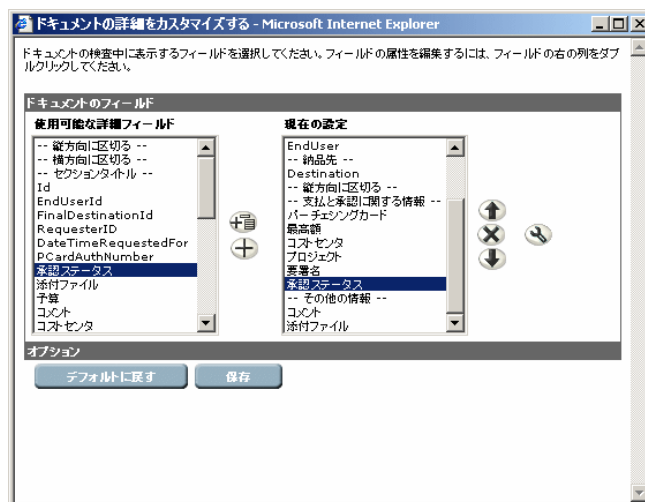
- 1 スパナアイコンをクリックします。  
カスタマイズ機能の編集用ウィンドウが表示されます。



【現在の設定】列は、現在のフォームに含まれているすべてのフィールドおよびコンポーネントを列挙します。

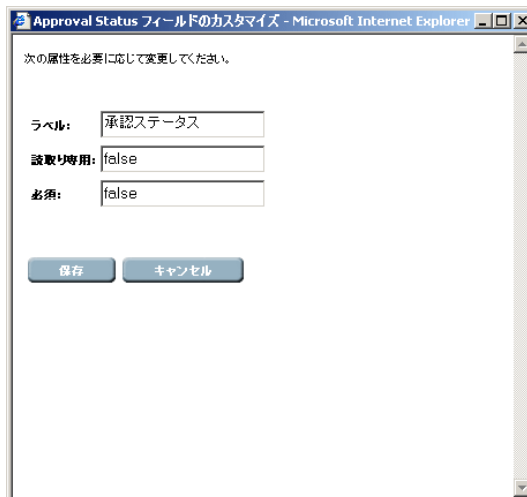
- 2 【使用可能な詳細フィールド】列で、フォームに追加するフィールドを選択してから、以下の操作の1つを実行します。
  - フォーム内の特定の場所にフィールドを挿入するには、【現在の設定】リストで新しいフィールドの挿入位置の真下に位置するフィールドを選択し、【挿入】をクリックします。選択したフィールドの上に新しいフィールド名が表示されます。
  - フォームの下部にフィールドを追加するには、【追加】をクリックします。

以下の画面の例では、**【支払と承認に関する情報】**セクションに**【承認ステータス】**フィールドが追加されます。



- 3 以下の操作の1つを実行すると、フィールドをさらに設定できます。
  - フィールドを別の場所へ移動するには、**【上に移動】**または**【下に移動】**ボタンをクリックします。
  - **【現在の設定】**リストからフィールドを削除するには、削除するフィールドを選択してから**【削除】**ボタンをクリックします。
- 4 フィールドの属性を編集するには、**【編集】**ボタンをクリックします。

編集ウィンドウが表示されます。



Approval Status フィールドのカスタマイズ - Microsoft Internet Explorer

次の属性を必要に応じて変更してください。

ラベル: 承認ステータス

読取り専用: false

必須: false

保存 キャンセル

編集ウィンドウでは、以下のオプションが使用可能です。

- フィールドの隣に表示されるラベルを変更するためのオプション
  - フィールドを「読取り専用」または「書込み可能」に設定するためのオプション
  - フィールドを必須フィールドとして設定するためのオプション
- 5 希望するオプションを選択してから、**[保存]**をクリックします。
  - 6 **[ドキュメントの詳細をカスタマイズする]**画面で、**[保存]**ボタンをクリックして変更事項をフォームに適用します。

以下の画面の例では、フォーム内に【承認ステータス】フィールドが新たに  
表示されています。



- 7 デフォルトの設定に戻るには、スパナアイコンをクリックしてカスタマイズ画面を表示し、【デフォルトに戻す】をクリックします。





## 3 | Peregrineポータルの使用

Peregrineポータルは、Get-Resourcesへのアクセスを可能にします。以下の2種類のユーザがGet-Resourcesにアクセスできます。

- 管理者
- エンドユーザ

本章では、ユーザログインで使用できる機能について説明します。管理者ログインに関しては、「**管理**」の章を参照してください。

ポータルには、管理者およびユーザログイン用のログイン画面があります。また、ポータルのホームページには、ナビゲーションメニュー、アクティビティの一覧を示す左枠、ポータルをカスタマイズするためのボタン、およびセッションを終了するためのボタンが表示されます。

---

### 注意:

ポータルにログインする前に、AssetCenter用にGet-Resourcesを設定する必要があります。詳しくは、第2部「**Get-ResourcesとAssetCenter**」を参照してください。

---

## Get-Resourcesにログインする

以下の2つのログイン画面から、Get-Resourcesにアクセスできます。

- ユーザのログイン画面：http://<server>/oaa/login.jsp
- 管理者のログイン画面：http://<server>/oaa/admin.jsp

## ユーザとしてログインする

ユーザが既に登録されている場合、ユーザは自分のユーザ名とパスワードを入力してから、[ログイン]ボタンをクリックします。未登録のユーザは、自分で登録できます。ユーザ登録については、「[ユーザ登録](#)」の節を参照してください。

以下の画面では、Get-Resourcesポータルを例に取り上げています。



## 左枠を使用する

左枠を使うと、Get-Resources経由で使用できる様々なタスクにアクセスできます。

左枠に表示されるデフォルトのメニューの内容は、以下のとおりです。

- **マイホームページ**：Peregrineポータルのホームページに戻ります。
- **コンテンツの追加/削除**：ホームページをカスタマイズするためのフォームにアクセスできます。このフォームには、カスタマイズ機能用のアイコンからもアクセスできます。
- **レイアウトの変更**：コンポーネントの位置を変更したり、Peregrineポータルからコンポーネントを削除したりできます。
- **テーマの変更**：ページのスキーマ全体を選択する、スタイルシートを変更する、スキンを変更するなどの操作を実行できます。

## Peregrineポータルをカスタマイズする

デフォルトのPeregrineポータルの画面では、**ナビゲーションメニュー**が表示されます。Peregrineポータルをカスタマイズすると、コンポーネントを追加できます。また、これらのコンポーネントのレイアウトを変更したり、コンポーネントを最小化してコンポーネントの詳細を非表示にしたりすることも可能です。

### コンポーネントを追加する

以下のコンポーネントを追加できます。

PeregrineポータルのWebアプリケーションコンポーネント

- ナビゲーションメニュー

Get-Resourcesユーティリティ

- 承認待ちの依頼
- ステータスの確認

個人ユーティリティ

- 電卓
- カレンダー
- スキンとスタイル
- 日付と時刻

カレンダーと電卓を使用するには、Microsoft Internet Explorer 5.0以上、またはNetscape 6.1以上が必要です。

Peregrineポータルのコンポーネントを追加するには、以下の手順に従います。

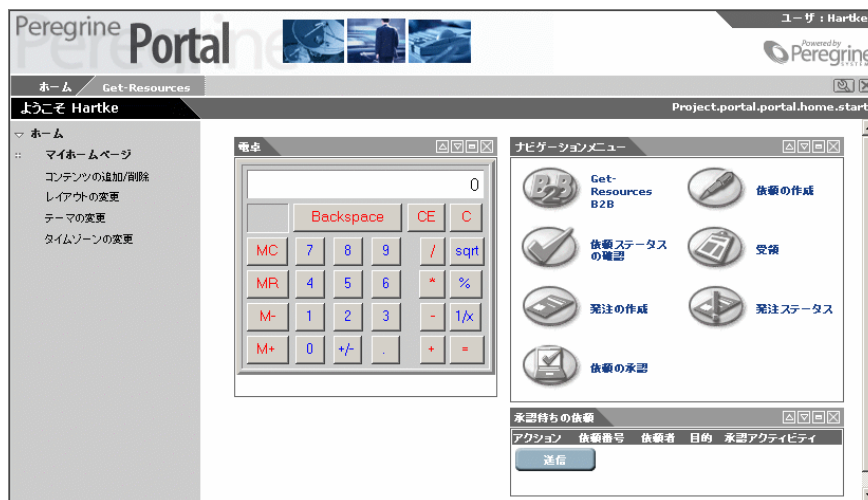
- 1 ホームページの右上にある **[カスタマイズ]** ボタン (スパナアイコン) をクリックします。

コンポーネントの一覧が表示されます。



- 2 追加するコンポーネントを選択します。
- 3 コンポーネントを追加した後、ページの下部にある [ 保存 ] ボタンをクリックします。コンポーネントを追加せずにPeregrineポータルに戻るには、[ 戻る ] をクリックします。

Peregrineポータルに戻ると、以下の画面のように、新しいコンポーネントが表示されているはずです。



## レイアウトを変更する

本節では、コンポーネントの位置を変更する手順、またはコンポーネントをPeregrineポータルから削除する手順を説明します。Webブラウザによって、手順が異なります。

### Microsoft Internet Explorer

Microsoft Internet ExplorerをWebブラウザとして使用する場合、各コンポーネントの右上にあるボタンを使って、コンポーネントを上下に移動する、コンポーネントを削除する、コンポーネントの詳細を表示/非表示にする、などの操作を実行します。



以下の画面では、電卓が縮小表示されています。【詳細の表示】ボタンをクリックすると、隠れているコンポーネントの詳細を再表示できます。



## Netscape Navigator

Netscape NavigatorをWebブラウザとして使用する場合、以下の手順に従って、コンポーネントを上下に移動、またはコンポーネントを削除します。

- 1 左枠で【レイアウトの変更】を選択します。  
変更するコンポーネントを選択します。

[狭いコンポーネント]は、ポータル左側に表示されます(例:電卓)。  
 [幅広のコンポーネント]は、ポータル右側に表示されます(例:トップニュース)。



- 2 変更するコンポーネントを選択した後、以下のボタンの中から適切なボタンをクリックして変更事項を有効にします。
  - 上向き矢印は、コンポーネントを上に移動します。
  - 下向き矢印は、コンポーネントを下に移動します。
  - Xは、コンポーネントをPeregrineポータルから削除します。
- 3 [保存]をクリックします。

## テーマを変更する

Get-Resourcesは、「Classic」テーマと共に提供されています。多数のスキンおよびスタイルシートから好みのものを選択して、Webページの外観を変更できます。既定のテーマを選択したり、テーマの一部を組み合わせたりすることが可能です。

以下のオプションが使用可能です。

- **スキン/スタイルのテーマ**：このオプションは、スキンとスタイルシートの両方を変更します。ページ上部に新しいバナーを作成し、アクティビティメニューの外観を変更します。ナビゲーションメニュー、およびその他のポータルコンポーネント用の色やアイコンも変更します。
- **スキン**：このオプションは、バナーとアクティビティメニューのみを変更します。

- **スタイルシート**：このオプションは、ポータルメイン部分（ナビゲーションメニューとその他のポータルコンポーネントを含む）を変更します。

テーマを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 ホームページの左枠で、**[テーマの変更]**を選択します。  
以下のフォームが表示されます。



- 2 ドロップダウンリストから、希望する値を選択します。

希望する項目を選択すると同時に、ページが更新され、変更が適用されます。以下のフォームの例では、スキン/スタイルのテーマ「siera」が適用されています。





新しいテーマは、次にテーマが変更されるまで保持されます。





# II | Get-Resources と AssetCenter

パート



# 4 | AssetCenterとの設定

本章では、AssetCenterデータベース用にGet-Resourcesを設定する方法を説明します。

- AssetCenterデモ用データベースを使用するためにGet-Resourcesを設定する
- AssetCenterの既存データベースを使用するためにGet-Resourcesを設定する
- バックエンドシステムのバージョンを識別する
- 管理モジュールを使ってデータベース名を定義する
- 発注の自動作成ワークフローを設定する

また、本章ではGet-Resources機能とワークフローチャートの概要が説明されています。

Get-ResourcesインストールにはAssetCenterのデモ用データベースが含まれていますが、AssetCenterを別々にインストールする必要があります。AssetCenterをインストールする時、完全インストール、またはカスタムインストール（AssetCenter APIを選択する）を選択します。詳しくは、AssetCenterの付属マニュアルを参照してください。

## Get-Resourcesアーキテクチャの概要

Get-Resourcesは、ACアダプタ経由でAssetCenterデータベースに接続します。Get-Resourcesで購入依頼が作成 / 処理されると同時に、AssetCenterデータベースでデータが保存 / 更新されます。

ユーザは、AssetCenterプロファイル、およびGet-Resources用の専用のユーザ権限を使って認証されます。ユーザ認証に関する詳細については、本マニュアルの「[ユーザ登録と認証](#)」の節、およびマニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』を参照してください。

## AssetCenterを設定する

Get-Resourcesは、AssetCenterと連動するようインストールされていますが、使用するデータベースへ接続するためにはGet-Resourcesを設定する必要があります。Get-Resourcesと共に提供されているデモ用データベース、または既存のAssetCenterデータベースを使用できます。

Get-ResourcesとAssetCenter間の接続を確立するには、管理モジュールの **[ 設定 ]** ページで以下の設定を行います。

タブ名	フィールド名	設定内容	対象環境
AssetCenter	データベース	AssetCenterデータベースの名前	WindowsとUNIX
AssetCenter	AC共有ライブラリ の名前	libaamapi41.so ( AssetCenterのバージョン4.1を使用しない場合は、ファイル名の「41」を適切なバージョン番号で書き換えます。 )	UNIX
AssetCenter	AC共有ライブラリ のパス	/usr/local/AssetCenter/bin/	UNIX
ポータルDB	エイリアスの対象	ac	WindowsとUNIX
Webアプリ ケーション	エイリアスの対象	ac	WindowsとUNIX

## AssetCenterデモ用データベースを使用するためにGet-Resourcesを設定する

Get-Resourcesと共に提供されているAssetCenterデモ用データベースを使用するためには、以下の手順を実行する必要があります。

- AssetCenterで、デモ用データベースへの新しい接続を宣言します。これは、ユーザDSNのみを設定します。
- アプリケーションサーバがサービスとして動作するように設定されている場合、システムDSNを設定します。Get-ResourcesインストールでTomcatをインストールした場合、この作業を行う必要はありません。
- AssetCenterからデータベースにログインして接続をテストします。
- 管理モジュールを使ってGet-Resourcesをデータベースに接続します。手順については「[AssetCenterを設定する](#)」の節を参照してください。ユーザ名とパスワードを定義します。

## 既存のAssetCenterデータベースを使用するためにGet-Resourcesを設定する

既存のAssetCenterデータベース用にGet-Resourcesを設定するためには、以下の手順を実行する必要があります。

- AssetCenterを使って、使用するデータベースに接続します。
- Get-Resourcesインストールと共に提供されている新しいスクリプトをインポートします。
- 管理モジュールを使ってGet-Resourcesをデータベースに接続します。ユーザ名とパスワードを定義します。

スクリプトのインポート作業は、「[スクリプトをインポートする](#)」の節で解説されている順序どおりに実行する必要があります。次節では、スクリプトの場所と役割を示す表が記載されています。

## スクリプトの説明

本節の2つの表では、AssetCenterスクリプトに関する情報を示しています。

- 最初の表は、インポートスクリプトとフォルダの場所を、AssetCenterのバージョン別に列挙しています。
- 2番目の表は、スクリプトの詳細と役割を示しています。

スクリプトへのデフォルトのパスは、

「`c:\jakarta-tomcat-3.2.4\webapps\baa\WEB-INF\etc<言語>\ac3またはac4`」です

<言語>は、ローカライズされたスクリプト用のIDに当たります。例えば、英語の場合「en」となります。

---

### 注意:

Tomcatをアプリケーションサーバとして使用しない場合は、使用するアプリケーションサーバ用のパスを入力してください。

---

	フォルダ	スクリプト
AssetCenter 3	getit import	feat.scr
		calcflds.scr
		profile.scr
		workflow.scr
		empldept.scr
	getit b2b import	feat.scr
		calcflds.scr
		profile.scr
		workflow.scr
AssetCenter 4	essential	essential.scr ( calcflds.scr、 feat.scr、 B2B用の同じスクリプトを含む )。このファイルは、Get-Resourcesが依頼ステータス用に使用するリストデータ値もインポートします。
	sample	profile.scr
		workflow.scr
	sample/b2b	profile.scr
		workflow.scr
	demo	empldept.scr



スクリプト	説明
feat.scr	<p>[ amEmplDept ] テーブル用の任意管理項目：DelegatedApproverIdスクリプトとDelegatedApprExpirationスクリプトを含みます。特定のユーザ（DelegatedApproverId）に特定の日付（DelegatedApprExpiration）まで、依頼承認を委任します。</p> <p>[ amProduct ] テーブル用の任意管理項目：メーカーのURLを含む、テキストベースの任意管理項目（ManufacturerURL）。他に、製品の詳細情報を充実化するために特殊フィールドが使う、Architecture、Processor、ProcSpeed、RAM、およびHDCapacityなどがありますが、Get-Resourcesでは直接使われていません。</p>
calcflds.scr	<p>【Product】テーブル用の【説明】特殊フィールド。製品に関する技術情報を提供します。</p>
profile.scr	<p>画面へのアクセス権限を制御するために、Get-Resourcesユーザ権限をインポートします。</p> <p>以下のユーザ権限があります。</p> <p>getit.requester（依頼へのアクセス）</p> <p>getit.advancedrequester</p> <p>getit.approver</p> <p>getit.receiver</p> <p>getit.pcardmanager</p> <p>getit.pcarduser</p> <p>getit.pcardbuyer</p> <p>getit.receiver（既定のユーザプロファイル3つをインポートします。）</p> <p>ユーザプロファイルとユーザ権限は以下のとおりです。</p> <p>getit.admin = getit.admin + getit.requester + getit.advancedrequester + getit.approver + getit.receiver + getit.pcardmanager + getit.pcarduser + getit.buyer + getit.b2badmin + getit.shopdirect</p> <p>getit.default = getit.requester</p> <p>getit.full = getit.requester + getit.advancedrequester + getit.approver + getit.receiver + getit.pcardmanager + getit.pcarduser + getit.buyer + getit.b2badmin + getit.shopdirect</p> <p>このスクリプトは、プロファイルの定義例です。必要に応じて変更できます。</p>

スクリプト	説明
workflow.scr	<p>Get-Resourcesが「out-of-the-box」の状態で作動するために必要なワークフローをインポートします。以下のワークフローのリストは、参照番号、名前、役割別に列挙されています。</p> <p>BUNDLPO（セット商品の発注）：セット商品を発注するために必要なワークフロー</p> <p>REQROUTE（依頼のルーティング）承認サイクルに進む前に、カタログ外依頼の情報を入力するためのワークフロー</p> <p>REQAPPR_GR（依頼承認）承認ワークフローのサンプル。参照番号が [REQAPPR_GR] であるワークフローのみが、Get-Resources内で表示されます。</p> <p>REQSTATUS（依頼ステータス）依頼品が受領されると、依頼のステータスを「受領済」に変更します。</p> <p>REQSTATUSスクリプトは、以下の3種類の従業員ワークグループをインポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IT：技術承認グループ（このグループに属する、getit.approver ユーザ権限を持つ従業員は、依頼の技術承認を付与できます）</li> <li>• 財務：財務承認グループ（このグループに属する、getit.approver ユーザ権限を持つ従業員は、依頼の財務承認を付与できます）</li> <li>• Getit：このグループは、カタログ外依頼の情報を入力できます。</li> </ul> <p><b>注意:</b></p> <p>カタログ外依頼の入力は、AssetCenterで実行します。Get-Resourcesでは、カタログ外依頼を入力することはできません。</p> <p>このスクリプトは、ワークフローの定義例として提供されており、必要に応じて変更できます。Get-Resourcesと共に提供されているAssetCenterワークフローの詳細については、「<a href="#">AssetCenterワークフロー</a>」の節を参照してください。</p>
empldept.scr	<p>このスクリプトはオプションスクリプトであり、デモ用データです。以下のように、プロファイルごとに従業員1人をインポートします。</p> <p>Valentine：Michael Valentineは、getit.adminです。</p> <p>Hartke：Richard Hartkeは、getit.fullです。</p> <p>Tossi：Michaela Tossiは、getit.defaultです。</p>

## スクリプトをインポートする

本節では、Get-Resourcesの新規データを、既存のAssetCenterデータベースにインポートする方法を説明します。

## 使用中のAssetCenterバージョンに応じて、以下の順序でスクリプトをインポートします。

AssetCenter 3:

- 「getit import」フォルダから、順序どおりに以下のスクリプトをインポートします。
  - feat.scr
  - calcflds.scr
- 「getit b2b import」フォルダから、順序どおりに以下のスクリプトをインポートします。B2B機能を使用しない場合でも、これらのスクリプトをインポートしなければなりません。
  - calcflds.scr
  - feat.scr
- 「getit import」フォルダから、順序どおりに以下のスクリプトをインポートします。
  - profile.scr
  - workflow.scr
  - empldept.scr

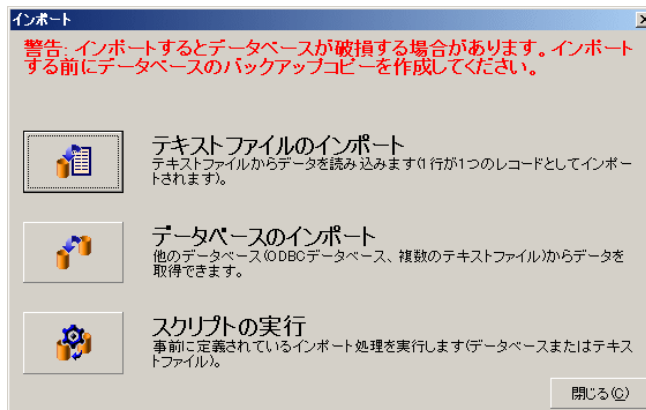
AssetCenter 4:

- 「essential」フォルダから、以下のスクリプトをインポートします。
    - essential.scr
  - 「sample」フォルダから、以下のスクリプトをインポートします。
    - profile.scr
    - workflow.scr
- B2Bサブフォルダ「sample」から、以下のスクリプトをインポートします。
- profile.scr
  - workflow.scr
- 「demo」フォルダから、以下のスクリプトをインポートします。
    - empldept.scr

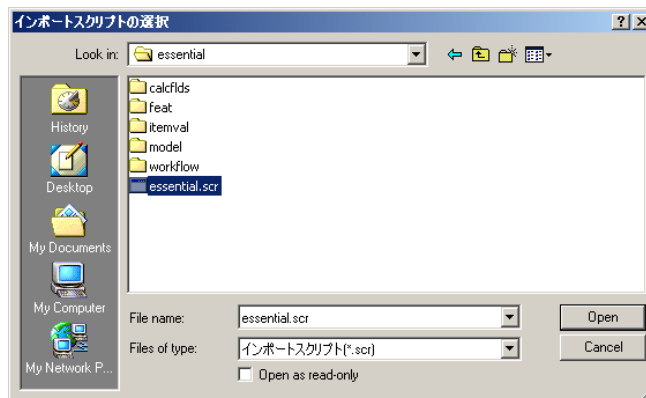
## AssetCenterスクリプトをインポートするには、以下の手順に従います。

- 1 AssetCenterにログオンします。

- 2 [ファイル/インポート]メニューをクリックします。



- 3 [スクリプトの実行]をクリックします。  
インポートするスクリプトの場所を参照するためのダイアログボックスが表示されます。



デフォルトの場所は、  
「c:\jakarta-tomcat-3.2.4\webapps\baa\WEB-INF\etc<language>\ac3またはac4」  
です。

- 4 使用中のAssetCenterバージョン用のフォルダを参照します。
- 5 インポートするスクリプトをクリックしてから、[開く]をクリックします。

選択したスクリプトへのパスが、[スクリプトの実行] ウィンドウに表示されます。

- 6 [インポート] をクリックします。
- 7 残りのスクリプトをすべてインポートするために、上記の操作を繰り返します。

インポート作業が完了すると、データベースで新しいデータを使用できます。AssetCenterを再起動する必要はありません。

- 8 AssetCenterにログオンし、[ツール/ワークフロー/ワークフローチャート] メニューを選択します。

Get-Resourcesのインポート作業では、[依頼承認] ワークフローがインポートされます。[購入依頼の承認] ワークフローがAssetCenterシステム内に既に存在する場合、新しい[依頼承認] ワークフローと競合する可能性があります。以下の方法で、[購入依頼の承認] ワークフローを無効にしてください。

- 1 ワークフローチャートのリストで、[購入依頼の承認] ワークフローを選択します。
  - 2 [全般] タブの[有効期間] セクションで、[開始] フィールドをクリアします。
  - 3 [終了] フィールドに過去の日付を入力します。
  - 4 [変更] をクリックして変更事項を保存します。
- 9 ユーザプロファイルがGet-Resourcesの新オプションに従って更新されているかどうかを、AssetCenterで確認します。プロファイルには、getit.default、getit.full、およびgetit.adminが新たに追加されているはずです。また、getit.buyerプロファイルとgetit.requesterプロファイルが「out of the box」の状態を提供されています。

## アクセスを認証する

AssetCenterを初めてインストールした場合、AssetCenterにログオンしてAssetCenterの認証コードを入力します。

### 注意:

認証コードを入力しない限り、Get-ResourcesはAssetCenterにアクセスすることができません。AssetCenter用に認証コードが付与されていない場合、DLL接続に失敗します。

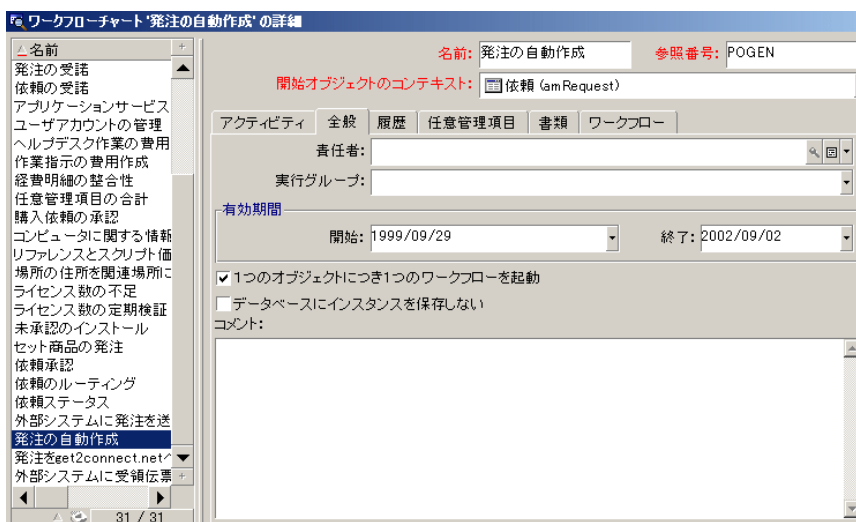
Get-ResourcesとAssetCenterは別々のサーバにインストールされています。管理モジュールを使って、適切なAssetCenter接続情報を指定します。

## [ 発注の自動作成 ] ワークフローを設定する

AssetCenterの [ 発注の自動作成 ] ワークフローは、Get-Resourcesで依頼が送信される度に、自動的に発注を作成します。AssetCenterで、このワークフローを無効に設定することも可能です。

### [ 発注の自動作成 ] ワークフローを無効にするには、以下の手順に従います。

- 1 AssetCenterで、 [ ツール/ワークフロー/ワークフローチャート ] メニューを選択します。
- 2 ワークフローのリストで、 [ 発注の自動作成 ] ワークフローを選択します。
- 3 [ 全般 ] タブを選択します。
- 4 [ 有効期間 ] セクションで、 [ 終了 ] フィールドに過去の日付を入力します。



- 5 [ 変更 ] をクリックします。
- 6 アプリケーションサーバを再起動します。

## AssetCenterデータベース接続のトラブルシューティング

Get-ResourcesとAssetCenterデータベース間の接続を適切に確立できない場合、以下の事項を確認してください。

- 1 管理モジュールのコントロールパネルで、データベースの接続ステータスを確認します。
- 2 「ac」が切断されている場合、**[設定]**ページの**[AssetCenter]**タブで指定されているデータベースパラメータが、AssetCenterに接続する際に表示されるデータベース名と同一であるかどうか確認します。例えば、デフォルトのシステムでは、データベースパラメータは「ACDemo351ENG」と設定されています。
- 3 AssetCenterの設定内容がGet-Resourcesの設定内容に完全に一致しているかどうか確認してください。Get-Resourcesのログインアカウントが、AssetCenterのログインと同一でなければなりません。また、Get-Resourcesで正しいユーザ名とパスワードが使われていることを確認します。このためには、AssetCenterで**[ファイル/データベース接続の管理]**メニューを選択します。
- 4 AssetCenterへのODBC接続を確認します。アプリケーションサーバの動作方法に応じて、ODBCユーザDSNまたはODBCシステムDSNが必要となります。
  - アプリケーションサーバがサービスとして動作するように設定されている場合（一般的な方法）、AssetCenterデータベースへのODBC接続用にシステムDSNを参照します。
  - アプリケーションサーバがアプリケーションとして動作するように設定されている場合、ODBC接続を決定するためにユーザDSNを参照します。





# 5 | 管理とセキュリティ

本節では、AssetCenter用に設定されたGet-Resourcesの、管理タスクおよびセキュリティについて説明します。プラットフォームのセキュリティに関しては、マニュアル『Open Application Architecture Platform Administrator's Guide』を参照してください。

## ユーザ登録と認証

Get-ResourcesとAssetCenterデータベースにアクセスするためには、AssetCenter内でプロファイルレコードが確立されていなければなりません。特定のユーザに対してタスクへのアクセス権限を有効化/制約するには、Get-Resourcesのユーザ権限を、ユーザのAssetCenterプロファイルに追加する必要があります。例えば、あるユーザのプロファイルは依頼の作成を許可するが、依頼の承認は許可しない、と指定します。

AssetCenter内でプロファイルが設定されていない場合、ユーザは自己登録を行うことができます。ユーザがGet-Resourcesに初めて登録すると、AssetCenter内に従業員レコード（[ amEmplDept ] テーブル）が作成されます。ユーザ名とパスワードが[ amEmplDept ] テーブルに保存され、デフォルトのプロファイル「getit.default」が割り当てられます。

ユーザがGet-Resourcesへのログインを試行すると、ユーザ名とパスワードがAssetCenterのレコードと照らし合わせて認証されます。入力されたユーザ名と

パスワードが無効な場合、有効なデータを入力するよう要求されます。ログイン情報が正しい場合、Get-Resourcesはユーザ用のアクセス権限を取得し、Get-Resourcesへのログインを許可します。

## ユーザ権限

AssetCenterはユーザ権限の内容を基にして、ユーザがシステム内のどのテーブルを変更できるのかを確認します。ユーザ権限は、プロファイルでまとめられています。従業員個人のレコードに、単一のプロファイルを関連付けることができます。Get-Resourcesはログインするユーザのユーザ権限を確認して、Get-Resourcesの適切な部分へのアクセスを許可します。AssetCenterは、ユーザ権限レコードの詳細に基づいて、テーブルへのアクセスを制約します。

## AssetCenterでユーザ権限を設定する

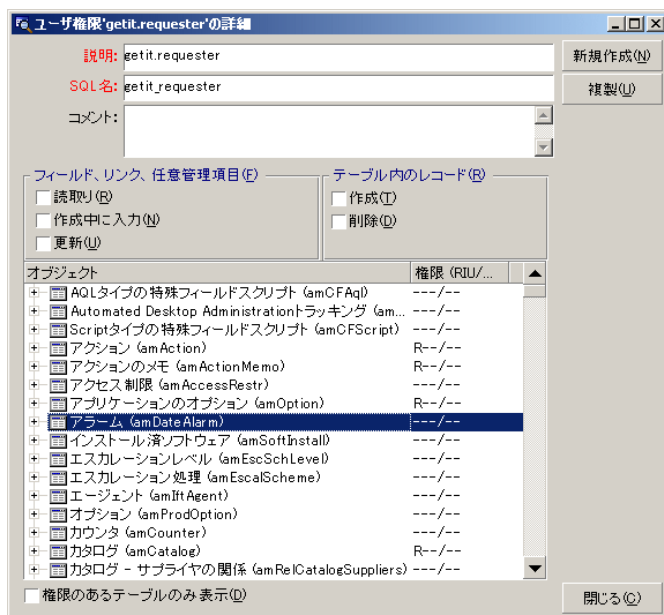
Get-Resourcesは、管理プロファイルを使って、ACアダプタ経由でAssetCenterに接続します。管理モジュールの【設定】ページで、「acadmin」パラメータと「acadminpassword」パラメータを設定します。この結果、Get-ResourcesはAssetCenterに接続できるようになります。AssetCenterで定義されたユーザ権限は、ログインするユーザがAssetCenter内のどのテーブルにアクセスできるのか（つまり、ユーザがGet-Resourcesのどの部分を参照できるのか）を決定します。Get-Resourcesユーザには、以下の1つまたは複数のユーザ権限キーワードを含むプロファイルが、割り当てられていなければなりません。

ユーザ権限のキーワード	アクセス権限
getit.advancedrequester	Get-Resourcesで依頼フォームの高度機能へのアクセスを許可します。例えば、依頼明細を分割したり、依頼明細のアイテムを別のエンドユーザに割り当てたりできます。従業員グループ用にアイテムを依頼する依頼者に便利な機能です。
getit.requester	Get-Resourcesで、依頼の作成を許可します。
getit.approver	依頼の承認を許可します。
getit.receiver	依頼に関連付けられたアイテムを受領することを許可します。
getit.b2badmin	ShopDirect B2B接続を管理することを許可します。
getit.shopdirect	サポート可能なベンダのWebサイトで、ShopDirectセッションを実行することを許可します。
getit.shopdirect.[VENDOR]	特定のベンダのWebサイトへのアクセスを許可します。
getit.buyer	発注を作成し、発注ステータスを変更することを許可します。
getit.pcardmanager	購買用カードを作成し、購買用カードの権限を管理することを許可します。
getit.pcarduser	依頼画面と発注画面で購買用カードを使用することを許可します。このアクセス権限が付与されていない場合、購買用カードのフィールドは表示されません。

Get-Resourcesと共に提供されているAssetCenterデモ用データベースは、Get-Resourcesが使うユーザ権限に、多数のアクセス権限を割り当てます。ただし管理者は、AssetCenterの標準クライアントへのアクセスを必要とするユーザ用に、権限を変更することができます。

例えば、デフォルトの「getit.requester」ユーザ権限は、AssetCenterの多数のテーブルへのアクセスを許可するように設定されています。以下の画面では、Get-Resourcesの特定の機能へのアクセスを制約するために、既定の権限を取り

消すことができます。詳しくは、AssetCenterの付属マニュアルを参照してください。



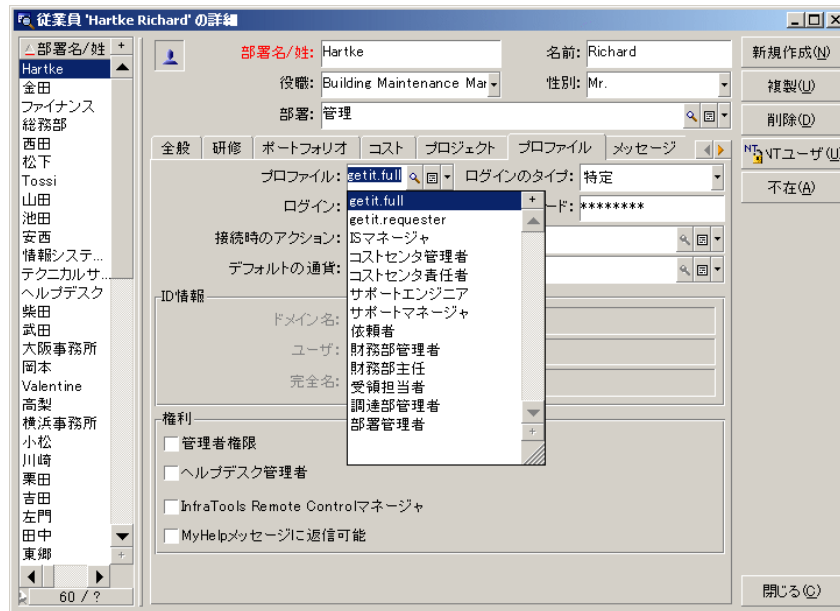
## サンプルプロファイル

Get-Resourcesでは、サンプルプロファイルがあらかじめ提供されています。これらのプロファイルは、様々なモジュールへのアクセスを許可するユーザ権限を組み合わせたものです。AssetCenterを使うと、希望する権限を組み合わせるプロファイルを作成することができます。

Get-Resourcesでは、以下のサンプルプロファイルが提供されています。

プロファイル	アクセス可能なモジュール
getit.admin	管理、B2B管理、リソース、ステータス、承認、受領、ShopDirect、購買用カード
getit.default	リソース、ステータス
getit.full	リソース、ステータス、承認、受領、B2B管理、ShopDirect、購買用カード
getit.buyer	購入、購買用カード、リソース
getit.requester	リソース、ステータス、購買用カード。このプロファイルは、依頼を申請するために最低限必要な権限を付与します。

ユーザが初めて登録すると、「getit.default」権限が割り当てられます。ユーザが完全アクセスまたは管理者アクセスを必要とする場合、AssetCenterの従業員レコードを更新します。



権限を追加する場合、AssetCenterで新規ユーザプロファイル（プロファイルに追加する権限を含めず）を作成するようお勧めします。



# 6 | Get-Resources インタフェース

本章の内容は、以下のとおりです。

- サンプルユーザとしてGet-Resourcesにログインする
- インタフェースの概要
- AssetCenterカタログとワークフローに関する情報

## サンプルユーザとしてGet-Resourcesにログインする

Get-Resourcesには、以下のサンプルユーザ3人が含まれています。

- Richard Hartke (ユーザ名: Hartke) : 依頼、承認、受領、購入権限が割り当てられています。
- Michaela Tossi (ユーザ名: Tossi) : 依頼権限のみが割り当てられたエンドユーザです。
- Michael Valentine (ユーザ名: Valentine) : 依頼、承認、受領、購入、管理権限が割り当てられています。

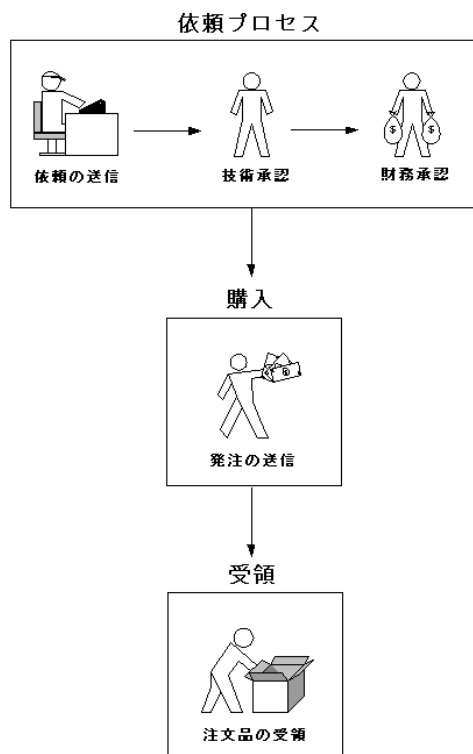
AssetCenterデモ用データベースでは、上記の各サンプルユーザ用に、Get-Resourcesへの様々なアクセス権限を含むプロファイルが定義されています。各ユーザの【プロファイル】タブでは、ユーザがアクセスできるテーブルの一覧を参照す

することもできます。詳しくは、AssetCenterの付属マニュアルを参照してください。

## Get-Resources機能

Get-Resourcesは、購入依頼の作成から始まり、承認手続きを経て、発注の作成、そして依頼品の受領に至るまでの調達プロセスを処理するための包括的なインタフェースを提供します。依頼が作成されると、ワークフローで依頼ステータスを確認できます。ワークフローは、依頼が承認プロセス内を移動するのと同時に、動的に更新されます。

以下の図は、AssetCenterと連動する場合のGet-Resourcesワークフローを示しています。

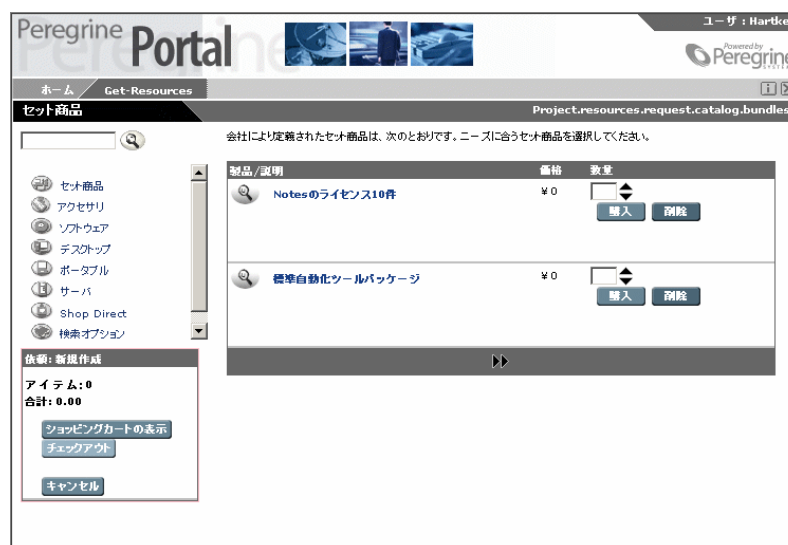


ユーザが依頼の作成作業を開始すると、ショッピングカートが表示されます。アイテムが新たに追加されるごとに、ショッピングカートの合計が動的に更新



されます。ユーザが選択したカテゴリとAssetCenterカタログの設定に基づいて、カタログアイテムが表示されます。

以下の画面は、Get-Resourcesの典型的なカタログ画面を例に取り上げています。サイドバーには、使用可能なカタログオプションとショッピングカートが表示されています。



## AssetCenterカタログ

Get-Resourcesは、AssetCenterの製品カタログ（[ amProduct ] テーブルに含まれています）を使用します。カタログでは、特に以下の内容を設定する必要があります。

- 認証フィールド
- 特殊フィールド

## 認証

Get-Resourcesは、【認証】フィールドを使って、AssetCenterカタログのアイテムが使用可能であるかどうかを判断します。



上記の画面で表示されているメニューボタンは、【amProduct】テーブルに対して、クエリを実行します。以下のクエリの例では、デスクトップコンピュータを例に取り上げています。

```
SELECT IProdId,Brand,Model,mPrice FROM amProduct WHERE (Certification LIKE 'Desktop%')
```

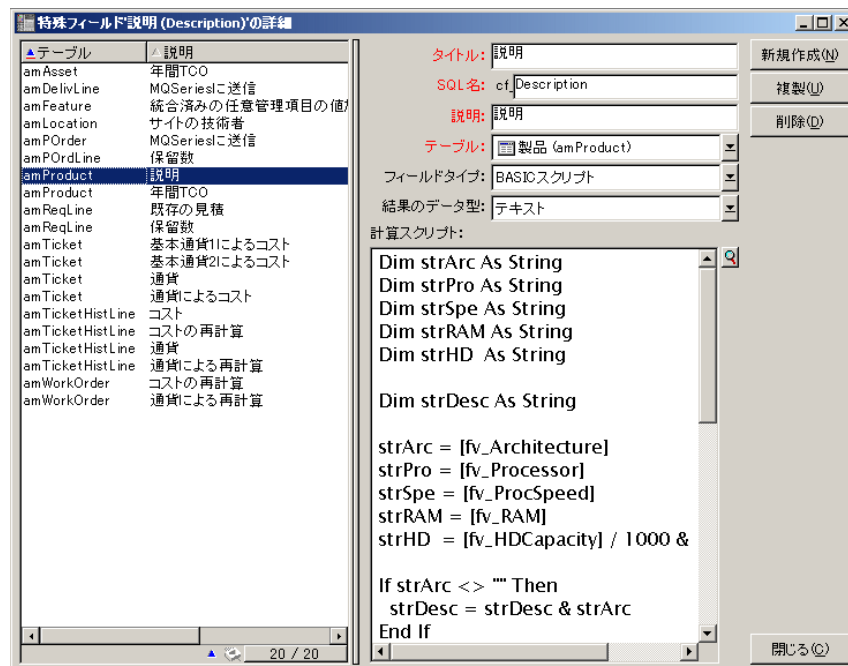
セット商品を除くすべてのカタログアイテムは、企業のニーズに合わせて容易に変更することができます。

セット商品の認証は、別の方法で実行されます。「セット商品」とは、特定の目的でまとめられたアイテムの集まりを指します。例えば、セット商品「営業部のポータブルコンピュータ」は、ポータブルコンピュータ、PCMCIA NIC、OSソフトウェア、複数のアプリケーションで構成されています。このセット商品の構成は、【amProduct】テーブルの複数のレコードをリンクして、【amProdCompo】テーブル内で定義されています。「procure.js」スクリプト内で、セット商品の処理方法が定義されています。

## 特殊フィールド : cf\_Description

特殊フィールドは、カタログ内のレコードの記述的な名称として使われます。Productスキーマで定義されているように、【説明】フィールドは【cf\_Description】特殊フィールドにマッピングされます。

以下の画面では、データ表示を簡易化するために、Get-Resources内でAssetCenterの特殊フィールドを使う例を取り上げています。特殊フィールドの詳細については、AssetCenterの付属マニュアルを参照してください。



## AssetCenterワークフロー

AssetCenterでは、ワークフローを使って企業業務を自動化 / 形式化することができます。Get-Resourcesでは、以下のAssetCenterワークフローが使用可能です。

- セット商品の発注 (AssetCenter 3.xのみ)
- 依頼のルーティング
- 依頼承認
- 発注の自動作成
- 依頼ステータス

上記のワークフローは、Get-Resources用にAssetCenterで定義されているデフォルトのプロセスを実行します。企業のニーズに応じて、ワークフローを変更することも可能です。

 **注意:**

ワークフローの最初と最後のボックスを変更しないよう気をつけてください。これらのボックスは、各ワークフローの前と後のワークフローにリンクされているためです。変更すると、ワークフローのリンクを破損し、ワークフローが機能しなくなります。詳しくは、AssetCenterの付属マニュアルを参照してください。

## [ セット商品の発注 ] ワークフロー

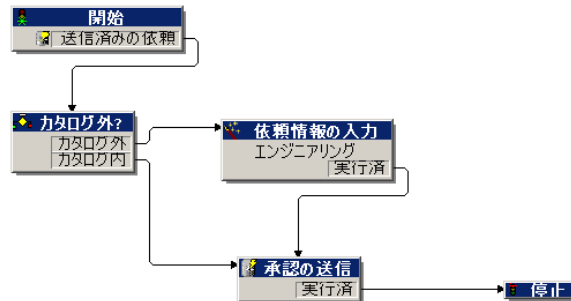
依頼が送信されると、[ **セット商品の発注** ] ワークフローは、送信された依頼がセット商品の依頼ではないか確認します。セット商品の依頼である場合は、ワークフローは依頼プロセスの発注段階から、セット商品を削除します。これは、セット商品自体ではなく、セット商品を構成する個々のアイテムが発注段階で処理されるようにするためです。



## [ 依頼のルーティング ] ワークフロー

依頼のステータスが [ **送信済** ] に設定されると、[ **依頼のルーティング** ] ワークフローが有効化されます。デフォルトでは、依頼はカタログ内依頼として処

理されるため、[ 依頼情報の入力 ] ボックスは使用されません。このワークフローの最後のボックスは、承認サイクルを開始します。

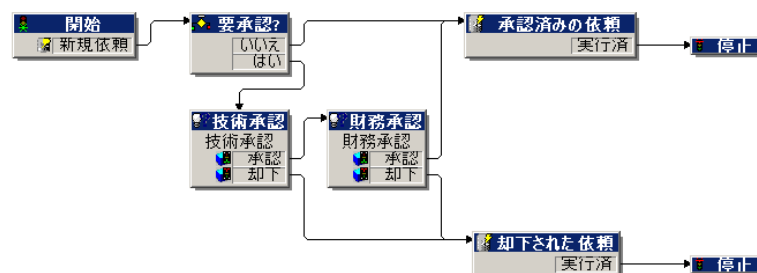


## [ 依頼承認 ] ワークフロー

[ 依頼承認 ] ワークフローは、送信済みの依頼の承認過程を定義します。依頼が承認過程を経ると、以下のいずれかの最終段階に達します。

- 依頼が承認された場合、承認ステータスと依頼ステータスが [ 承認済 ] に設定されます。依頼ステータスに応じて、依頼の詳細の表示内容が異なります。
- 依頼が承認されない場合、承認ステータスと依頼ステータスは [ 却下 ] と設定されます。

AssetCenterで [ 依頼承認 ] ワークフローを変更する場合、[ 参照番号 ] フィールドの「REQAPPR\_GR」を保持するよう注意してください。これを怠ると、システムはワークフローを処理できなくなります。



## [ 発注の自動作成 ] ワークフロー

依頼の承認ステータスが [ 承認済 ] に変わると、[ 発注の自動作成 ] ワークフローが起動されます。依頼1件につき発注1件が自動的に作成されます。この設定を変更して、ベンダ別の複数の発注を作成したり、複数の依頼を1つの発注にまとめたりすることも可能です。発注の自動作成を無効にする方法については、「[ 発注の自動作成 ] ワークフローを設定する」の節を参照してください。



## [ 依頼ステータス ] ワークフロー

注文品を受領すると、[ 依頼ステータス ] ワークフローは依頼ステータスを [ 受領済 ] に変更します。依頼の進行状況を参照すると、ステータスは [ 受領済 ] に変更されているはずです。





# III | B2Bサーバ

---

パート





# 7 | B2B通信

---

Get-Resourcesは、依頼と承認プロセスを管理するための、複数の手段を提供します。Get-Resourcesを最大限に活用するために、Get2Connect.netと連動するB2B機能を使用することができます。Get2Connect.netは、Peregirne SystemsのB2Bソリューションであり、Get-Resourcesとサプライヤ間で、サプライヤのプロトコルに依存しないシームレスな経路を確立することを可能にします。

本章では、インターネット時代の到来以来、B2B通信がどのように発展してきたか、そしてGet2Connect.netはB2B通信ツールをどのように使用するのかを説明します。

## B2B通信の発展

B2B ( Business to Business ) 通信は、コンピュータソフトウェア、サーバおよびWebベースの技術を用いて、企業がインターネット上で商品を売買するための経路を提供します。B2Bの基本アーキテクチャは、エンドユーザがインターネットショッピングを行うためのクライアント、製品 / 価格情報を格納するためのサーバ、およびe-コマースサイト間でデータを交換するためのプロトコルとスクリプト、という構造を取ります。

B2B通信は、インターネットと並行して発展してきました。初期のB2Bサイトは、Amazon.comのような今日のB2C ( Business to Consumer ) サイトを模倣するようなものでした。初期のB2Bサイトは、データ表示にHTMLを使用していました。

た。発注書などの取引用文書は一切インターネット経由で送信されていませんでした。購買担当者が、自分の企業用にサプライ品を調達するために、B2Bサイトを使用する程度に留まっていた。バイヤユーザは、配達先情報、請求先住所、発注番号などの情報をサプライヤサイトで入力しなければなりませんでした。つまり、初期のB2Bサイトでは、バイヤ用の自動プロセスが全くサポートされていませんでした。

初期のB2Bサイトの後、ASP（アプリケーションサービスプロバイダ）がホストする、サーバベースのアプリケーションが出現しました。このタイプのアプリケーションでは、オンライン発注、承認ワークフローおよびレポートがサポートされます。ただし初期のB2Bサイトと同様に、バイヤは住所や発注番号などの情報を手動で入力しなければなりませんでした。

今日のB2B通信では、依頼/承認プロセスが自動化されています。B2B商取引で使われるWebサーバベースの調達アプリケーションは、バイヤとサプライヤのファイアウォールのセキュリティで保護されています。

このような商取引を可能にするのは、Peregrine SystemsのGet2Connect.netやAribaのCommerce Network ServicesなどのB2Bネットワークワークです。B2Bネットワークはサーバを使って、商取引を認証したり、ドキュメント形式を変更したり、またはB2B通信に関連するその他のタスクを実行したりします。つまり、サプライヤと通信するために、バイヤ企業の調達アプリケーションで、各サプライヤごとに異なるプロトコルを使う必要がなくなります。調達アプリケーションは、シンプルなXMLプロトコルを使ってB2Bネットワーク（特にGet2Connect.net）と通信を行います。

バイヤ企業の大半は、B2B通信で、以下のようなトランザクションを電子的に処理することを望んでいます。

- 発注および発注の確認メッセージを送信/受信する。
- 正式な受注の確認メッセージ、または拒否メッセージ（拒否理由も含む）を受信する。
- 発送通知メッセージを受信する。
- 請求書を受信する。

しかし、上記のトランザクションを電子的に処理するために必要な技術が、サプライヤ側に備わっていないことが多くあります。サプライヤの中には、XMLよりも古いプロトコル（EDIなど）を使うものもあります。B2Bネットワークはバイヤの調達アプリケーションとサプライヤサイト（マーケットサイト）との間の中継点の役割を果たします。

## B2Bプロセスの概要

Get2Connect.net経由のB2Bプロセスのフローは、エンドユーザがショッピング中に何を選択するかによって異なります。ユーザがバイヤカタログ（例：バイヤ

がAssetCenterでホストするカタログ)からアイテムを選択する場合と、サプライヤカタログ(Peregne Systemsが定義する「ShopDirect」プロトコル)を場合とでは、ドキュメント/データのフローが異なります。(ShopDirectの詳細については、「[ShopDirectを理解する](#)」の章を参照してください。)

## カタログのストレージとアクセス

ユーザがオンラインショッピングを行うためには、まずカタログデータを準備する必要があります。パイヤは以下の3つの方法で、カタログデータにアクセスできます。1) サプライヤのShopDirectサイトでアイテムを参照する、2) Get-Resourcesを使って特定のカタログアイテムを取得し、AssetCenterに格納する、3) サプライヤが発行するカタログ全体をデータベースにダウンロードする。カタログデータへのアクセス方法は、取引先となるサプライヤの技術能力に応じて決まります。カタログに関する詳細は、「[カタログを理解する](#)」の章を参照してください。

## アイテムの選択

パイヤ自身がカタログをホストする場合、発注を作成し、Get2Connect.netに送信するまで、全トランザクションがファイアウォールの後ろ側で行われます。これに対して、ShopDirect用に設定されたサプライヤサイトでアイテムを選択する場合、以下のイベントが発生します。

- 1 Get-Resourcesは、ユーザが選択したアイテムに関する情報要求を、Get2Connect.net経由で送信します。
- 2 サプライヤサイトは、パイヤのGet-Resourcesバージョンを認証し、Get-Resourcesをパイヤ用のアイテム情報を含むカタログページへ転送します。
- 3 ユーザがチェックアウトすると、ユーザがショッピングカートに入れたアイテムに関するサプライヤ情報は、Get2Connect.net経由でGet-Resourcesに送信されます。

## 依頼承認と発注作成

依頼の作成/承認プロセスは、以下のとおりです(AssetCenterで格納されるパイヤカタログを使用する場合にせよ、ShopDirectサイトを使用する場合にせよ、プロセスは同一です)。

- 1 Get-Resourcesは依頼を作成し、承認待ちの依頼をAssetCenterに格納します。

- 2 バイヤがAssetCenterをどのように設定したかに応じて、依頼はAssetCenterワークフローで承認されるか、またはユーザ自身がGet-Resourcesを使って依頼を承認します。
- 3 AssetCenterは、発注を作成し、送信待ちのキューに入れます（発注は、Get2Connect.net経由でサプライヤに送信されます）。

## 発注の送信と受注

発注が承認されると、Get-ResourcesはGet2Connect.net経由でサプライヤに送信するまで、発注をキューに入れます。Get-Resourcesは、スクリプトと呼ばれる自動プロセスを使って、待機中のドキュメントを送信 / 取得します。

発注の送信後、Get2Connect.netが発注を受領すると、ユーザに確認通知メッセージが送信されます。サプライヤが正式に受注すると、メッセージがもう1件送信されます。発注に関する詳細は、「[発注を理解する](#)」の章を参照してください。

## 請求と発送

Get-ResourcesとGet2Connect.netは、発注の処理方法と同じ方法で、請求書および発送通知を受信します。請求書のステータスおよび発送ステータスは、Get-Resourcesを使って確認できます。詳しくは、「[B2Bサイトを管理する](#)」の章を参照してください。

## Peregrine SystemsのB2Bアーキテクチャ

Peregrine SystemsのB2Bシステムは、上記の標準B2Bモデルに準拠しています。標準モデルは、ファイアウォールの後ろ側に位置するコンポーネントと、Peregrine SystemsのB2Bサーバ上に位置するコンポーネントから構成されています。

Peregrine SystemsのB2Bシステムの中核は、Get2Connect.netです。バイヤは、Get2Connect.net経由でサプライヤとコミュニケーションを行います。

Get2Connect.netは、B2Bサーバとサプライヤサイト間の橋渡の役割を果たします。Get2Connect.netは、B2Bサーバとサプライヤサイトで交換されるドキュメント（例：発注）を送信 / 受信します。また、ドキュメントをサプライヤに合った形式に変換します。Get2Connect.netでは、以下の技術が使用されています。

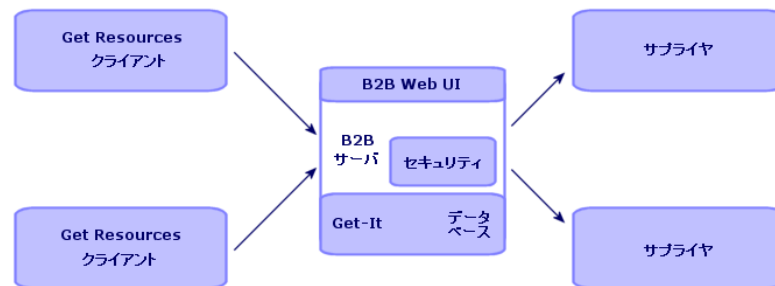
- サプライヤカタログのプロトコル。例：OBI、PunchOut、RoundTripなど
- バイヤカタログのプロトコル。例：Catalog Interchange Format (CIF)、Catalog Update Package (CUP)、Peregrine SystemsのCatalogUpdates.xml形式

- Get-Resourcesとバックエンドシステム（ServiceCenter、AssetCenter）をリンクするためのアダプタ。Get2Connect.netでは、特定のエラーが発生すると、問題チケットをオープンすることができます。
- 洗練されたB2Bエンジン。例：Power Enterprise、ExtricityのAlliance

Get-Resourcesは、B2Bサーバのプロセスを管理するためのフロントエンドを提供します。エンドユーザは、Get-Resourcesを使ってオンラインショッピングを行ったり、保存済みのカタログからアイテムを選択したりすることができます。AssetCenterデータベースにダウンロード/格納されたカタログを使用する場合、ファイアウォールの後ろ側で調達業務を行います。これに対してShopDirect方法では、サプライヤが自分のサイトでカタログをホストします。エンドユーザはサプライヤの許可を得て、サプライヤサイトを参照します。（詳しくは「AssetCenterとGet-Resources」の章を参照してください。ShopDirectの概要については、「ShopDirectを理解する」の章を参照してください。

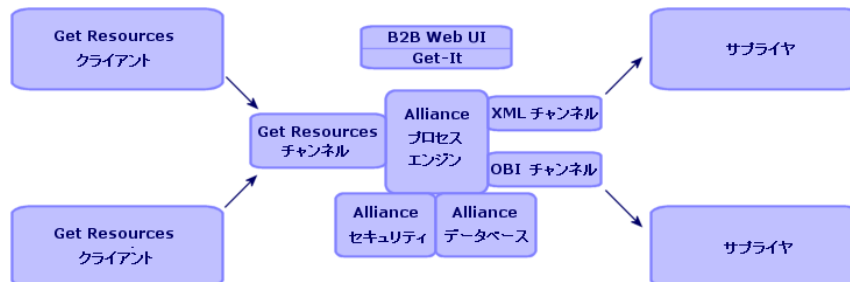
以下の図は、B2Bシステムの概要を示しています。

図 7.1. B2Bサーバシステムの概要



以下の図は、B2Bシステム下でAlliance技術がどのように機能するのかを示しています。

図 7.2. B2BサーバシステムとAlliance



B2Bシステムの主要アプリケーションであるAssetCenterとGet-Resourcesでは、以下の技術が使用されています。

- HTTPS。Hypertext Transfer Protocolの安全なバージョン。Get-Resourcesクライアントとサーバ間でドキュメントを送信するために用いられます。
- XML。テキストファイルで構造データを記述するためのドキュメントメタ言語です。
- Webサーバ。例：Apache、Netscape Enterprise Server、IIS、またはJava Web Server
- Get2Connect.net用のインタフェースを提供する一般的なクライアント。例：Webブラウザ、Palm Pilot、携帯電話（HDML使用）

# 8 | B2B用にGet-Resourcesを設定する

B2Bソフトウェアとテクノロジーをインストールした後、Get2Connect.netと連動するように、Get-Resourcesを設定します。（Get2Connect.netの詳細については、次章を参照してください。）

B2Bサーバソフトウェアのインストール方法については、マニュアル『B2B Server 2.0 Installation and Administration Guide』を参照してください。

B2B用にGet-Resourcesを設定するには、Get-Resourcesの管理モジュールで、使用するB2BサーバのURLを追加するのみです。B2BサーバのURLは、Get2Connect.net内でユーザ企業のシステムを識別し、サプライヤとの通信を許可します。

URLを初めて追加する場合、「**B2BサーバのURLを初めて追加する**」の節を参照してください。既存のB2BサーバのURLを更新する場合は、「**既存のB2BサーバのURLを更新する**」の節を参照してください。

## B2BサーバのURLを初めて追加する

B2Bサーバを初めてセットアップする場合、以下の手順でB2BサーバのURLを入力する必要があります。

## 新しいB2BのURLを追加するには、以下の手順に従います。

- 1 管理者としてhttp://localhost/getit/admin.jspにログインします。
- 2 左枠で **【設定】** をクリックします。
- 3 **【B2Bサーバ】** フィールドで自分のB2BサーバのホストURLを入力します。  
例えば、「http://b2bserver.get2connect.net」と入力します。B2BサーバのURLが分からない場合は、Peregrine Systemsまでお問い合わせください。
- 4 ページの下部にある **【保存】** ボタンをクリックします。
- 5 サーバをリセットします。

### 注意:

AllianceベースのB2Bサーバへ初めて接続し、AllianceでGet-Resourcesパートナーが作成されていない場合、Get-ResourcesインスタンスにDUNSおよびパスワードのレガシ設定が残っていないかどうか確認してください。レガシ設定を削除するには、**【B2Bサーバの設定】** セクションで、**【B2Bサーバ】** フィールドを除く全フィールドの値をクリアします。

## 既存のB2BサーバのURLを更新する

既に入力されているB2BサーバのURLを更新する必要がある場合は、以下の手順に従います。

## 既存のB2BサーバのURLを更新するには、以下の手順に従います。

- 1 管理者としてhttp://localhost/getit/admin.jspにログインします。
- 2 左枠で **【設定】** をクリックします。
- 3 **【B2Bサーバ】** フィールドで既存のB2BサーバのホストURLをクリアし、新しいURLを入力します。  
例えば、「http://b2bserver.get2connect.net」と入力します。B2BサーバのURLが分からない場合は、Peregrine Systemsまでお問い合わせください。
- 4 ページの下部にある **【保存】** ボタンをクリックします。
- 5 サーバをリセットします。



# 9 | AssetCenterとGet-Resources

AssetCenterとGet-Resourcesは、B2Bシステム用にバックエンドとブラウザシステムを提供します。AssetCenterは資産管理タスクを実行するのに加えて、Get2Connect.net経由でサプライヤと通信する時に使われる、依頼、承認、発注および請求書を管理します。

Get-Resourcesは、AssetCenterのB2Bコンポーネント用のフロントエンドの役割を果たします。Get-Resourcesは、Get2Connect.net経由でサプライヤと通信し、エンドユーザがサプライヤのカタログを参照することを可能にします。

本章では、AssetCenterとGet-ResourcesがGet2Connect.net環境を、どのようにサポートするのかを説明します。

## AssetCenter

B2B環境に関連するドキュメントとプロセスを管理するために、AssetCenterはスクリプト、ワークフローおよび特定のデータベースフィールドを使用します。これらの要素は、B2Bサーバをインストール/設定する際に、自動的にインポートされます。

本節では、Get2Connect.netに関連するスクリプト、ワークフローおよび特定のデータベースフィールドについて説明します。

## スクリプト

スクリプトは、B2B用に必要なデータをインポートします。システムが Get2Connect.net と対話できるようにするには、以下のスクリプト5つを AssetCenter にインポートする必要があります。

- スクリプト「Feat.scr」は、依頼承認を委任するための任意管理項目をインポートします。
- スクリプト「Calcflds.scr」は、製品の技術情報を AssetCenter へインポートします。インポートされた情報は、エンドユーザの [製品の詳細] フィールド表示されます。
- スクリプト「Profle.scr」は、Get-Resources用のユーザ権限をインポートします。以下のユーザ権限がインポートされます。
  - getit.requester
  - getit.advanced requester
  - getit.approver
  - getit.asset
  - getit.assetrw
  - getit.receiver。getit.receiverは、次のプロファイルをインポートします。getit.admin（管理者）、get.full（承認権限とShopDirect権限を含む）、getit.default（エンドユーザ）。  
上記のユーザ権限の内容については、「スクリプトの説明」の節を参照してください。
- スクリプト「Workflow.scr」は、Get-Resourcesが「out-of-the-box」の状態で作動するために必要な、以下のワークフローをインポートします。
  - BUNDLPO（セット商品の発注）：セット商品を発注するために必要なワークフロー
  - REQROUTE（依頼のルーティング）：承認サイクルに進む前に、カタログ外依頼の情報を入力するためのワークフロー
  - REQAPPR（依頼承認）：承認ワークフローのサンプル。
  - REQSTATUS（依頼ステータス）：依頼品が受領されると、依頼のステータスを「受領済」に変更します。
  - EMPLDEPTSCR（部署と従業員）：このスクリプトはオプションスクリプトであり、デモ用データです。プロファイルごとに従業員1人をインポートします。
- スクリプト「Reqstatus.scr」は、以下の3種類の従業員ワークグループをインポートします。
  - IT：技術承認グループ（このグループに属する、getit.approverユーザ権限を持つ従業員は、依頼の技術承認を付与できます）

- 財務：財務承認グループ（このグループに属する、getit.approverユーザ権限を持つ従業員は、依頼の財務承認を付与できます）
- Getit：このグループは、カタログ外依頼を作成できます。カタログ外依頼の入力は、AssetCenterで実行します。Get-Resourcesには、カタログ外依頼を入力するためのモジュールはありません。

## ワークフロー

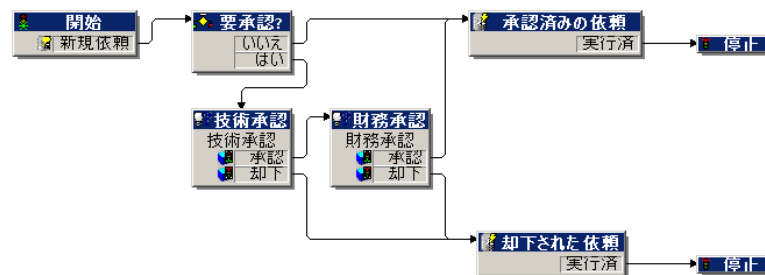
ワークフローは、AssetCenterでビジネスプロセスを自動化します。ワークフローは、実行するタスク、および他のアクティビティをトリガするイベントで構成されています。以下のワークフローは、Get2Connect.netに直接関連し、B2Bサーバをインストールする際にAssetCenterへ自動的にインポートされます。

### 🔑 重要項目:

AssetCenterでワークフローを変更する場合、開始イベントと終了イベントを変更しないよう気をつけてください。変更すると、ワークフローが機能しなくなります。

- [ 依頼承認 ] ワークフローは、発注の標準承認プロセスを定義します。

図 9.1. [ 依頼承認 ] ワークフロー



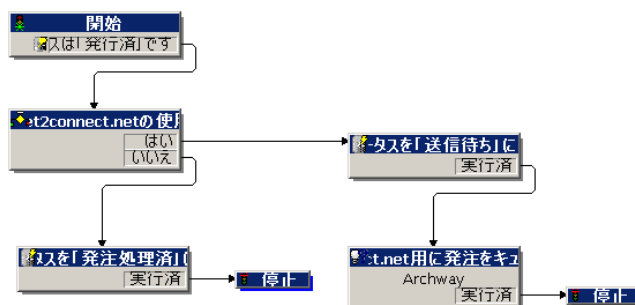
- [ 発注の自動作成 ] ワークフローは、依頼の承認後に発注を作成します。

図 9.2. [ 発注の自動作成 ] ワークフロー



- [ 発注をGet2connect.netへ送信 ] ワークフローは、Get2connect.net経由の発注の送信プロセスを自動化します。

図 9.3. [ 発注をget2connect.netへ送信 ] ワークフロー



## データベースフィールド

AssetCenterは、B2B環境用に以下の4つの任意管理項目フィールドを使用します。

- [ fv\_DUNSnumber ] フィールド：Get2Connect.netが識別するサプライヤのDUNS番号。サプライヤのWebサイトでShopDirectトランザクションが実行されると、この任意管理項目は自動的に入力されます。
- [ fv\_useGet2Connect.net ] フィールド：発注をGet2Connect.netへ送信するかどうかを指定するためのチェックボックスです。
- [ fv\_SupplierAuxiliaryPartNumber ] フィールド：[ amProdSupp ] テーブルに関連し、サプライヤの補助参照番号に関する情報を記録します。補助参照番号は、サプライヤが生成するクッキーに当たり、見積番号またはショッピングカートの識別子を含んでいます。
- [ fv\_UNSPSC\_code ] フィールド：[ amProduct ] テーブルに属するフィールドであり、各サプライヤ参照番号に対応するUNSPSCのカテゴリコードを含んでいます。

## Get-ResourcesとGet2Connect.net

AssetCenterで作成された後Get-Resources経由で送信されるB2Bドキュメント（例：発注）は、XML形式を取っています。すべてのサプライヤがXMLドキュメント

をサポートするとは限らないため、Get2Connect.netはXMLドキュメントをサプライヤが要求する形式（例：OBI）に変換します。

サプライヤは、自分がサポートする形式を使って、ドキュメントをバイヤに送信します。ドキュメント（例：請求書、受注確認、カタログの更新情報など）がサプライヤからGet2Connect.netに届くと、Get2Connect.netはドキュメントをXML形式に変換します。

Get2Connect.netとGet-Resourcesは、ドキュメントの転送と変換を自動化するためにスクリプトポーリングを使用します。スクリプトポーリング機能は、スクリプトを使ってドキュメントを自動的に送信/取得します。本マニュアルでは、Get-Resourcesスクリプトのみを解説しています。

Get2Connect.netに関連するGet-Resourcesスクリプトは、以下のとおりです。

- Pactask2qdoc：承認された発注を、Get2Connect.netへの送信待ちキューに入れます。
- SendB2Bpo：キューの発注をGet2Connect.netに送信します。
- ProcessCatalogUpdates：カタログの更新情報に当たるXMLドキュメントを処理して、AssetCenterデータベースに挿入します。
- ProcessInvoices：処理待ちの請求書を処理して、AssetCenterで請求書情報を更新します。
- GetWaitingDocs：Get2Connect.netで待機中のドキュメント（例：発注ステータスの更新情報、請求書）を取得します。
- ProcessPOStatus：Get2Connect.netで発注の確認情報を検索し、取得します。

## アクセス権限

Get-Resourcesでは、ユーザはオンラインで登録作業を実行できるため、システム管理者がアクセス許可の要請に答える手間が省けます。

ユーザがGet-Resourcesへのログインを試行すると、入力されたユーザ名とパスワードはAssetCenterのプロファイルと照らし合わせて認証されます。AssetCenterはユーザ権限プロファイルを基に、ユーザがGet-Resourcesでどのタスクを実行できるのかを確認します。例えば、「getit.ShopDirect」プロファイルが割り当てられたユーザのみが、ShopDirectを使用できます。Get2Connect.net用のユーザ権限は、以下のとおりです。

ユーザ権限	モジュール
getit.b2badmin	B2B管理
getit.ShopDirect	Get-ResourcesでのShopDirectへのアクセス
getit.ShopDirect.suppliername	特定のサプライヤへのShopDirectアクセス

## セキュリティ

B2B通信は、SSL ( Secure Sockets Layer ) を使って自動的に暗号化されます。SSLは、HTTP通信を暗号化して送受信する業界標準の通信プロトコルです。

以下の通信で、SSLが適用されます。

- Get-ResourcesのWebサーバとGet2Connect.net間の通信
- Get2Connect.netとサプライヤ間の通信
- Get2Connect.netとGet2Connect.netパイプラインサーバ ( EDIの送信 / 受信用インタフェース ) 間の通信

ユーザがGet2Connect.netに登録する際、ユーザIDとパスワードを選択するよう要求されます。ユーザIDとパスワードは、暗号化され、Get-ResourcesのWebサーバに格納されます。暗号化されたID情報は、Get2Connect.netへ送信される全メッセージに含まれます。

管理者は、以下のタスクを実行する必要があります。

- エンドユーザのアカウントと権限レベルを設定する。
- Get-ResourcesのWebサーバへのアクセスを制限する ( ブラウザ経由のアクセスとファイルシステムへの直接アクセスの両方 ) 。
- 適切な権限を持たないユーザが、発注の準備 / 承認タスクを実行することを阻止する。
- 自動的に承認される依頼の最高金額を指定する。

# 10 | カタログを理解する

カタログは、サプライヤの商品に関する情報の集まりです。サプライヤは、カタログで以下の情報を記録します。

- メーカー品番
- サプライヤの参照番号（サプライヤがメーカーではなく再販業者である場合、メーカー品番と区別して用いられます。）
- アイテムの詳細情報
- サプライヤのID番号
- 価格

バイヤは、サプライヤカタログとバイヤカタログのいずれかを使用します。本章では、これらの2種類のカタログについて説明します。

## サプライヤカタログ

サプライヤの中には、自社のWebサイトでカタログをホストすることを好むサプライヤがあります。サプライヤカタログには、価格情報および在庫情報がより正確であるという利点があります。また、エンドユーザが購入するアイテムを選択しない限り、カタログ情報はダウンロードされません。選択されたアイテムの情報のみが、AssetCenterデータベースにインポートされます。

サプライヤは以下のいずれかの方法で、B2Bトランザクション用のカタログをホストします。

- OBI (Open Buying on the Internet) : Open Buying on the Internet Consortiumにより開発された、企業間e-コマースの仕様です。
- OCI (Open Catalog Interface) : SAPにより開発された、バイヤのファイアウォールの後ろ側で行われる、サプライヤサイトと調達アプリケーション間の通信方法です。当初使用されていたHTMLに代わり、XMLが現在使用されています。
- PunchOut : Aribaが開発したcXMLプロトコルです。
- RoundTrip : CommerceOneにより開発されました。当初RoundTripはCBLに基づいていましたが、SAPとCommerceOne間の協力の向上を図るために、OCIに対応できるよう再設計されました。

Get2Connect.netは、Peregrine Systemsが開発したShopDirectプロトコルを使って、上記の全プロトコルを標準化します。Aribaなど他のB2Bネットワークは、Aribaと同じプロトコルを使うサプライヤのみと通信することができます。これに対してGet2Connect.netは、プロトコルの種類に関係なく、Get-Resourcesがサプライヤと通信することを可能にします。

サプライヤカタログの利点と欠点は以下のとおりです。

利点	欠点
サプライヤ自身がカタログ情報を管理する	サプライヤサイトの性能が、エンドユーザのショッピングに影響を及ぼす
ユーザのショッピングの充実化	バイヤは、エンドユーザに対して表示内容を制約できない
セットアップ/価格設定ツールが内蔵されているため、サプライヤは複雑な製品を容易に管理できる	バイヤまたはエンドユーザは、複数のサプライヤの商品を容易に比較できない

## バイヤカタログ

サプライヤからの許可を受けた上で、バイヤのシステム管理者が、サプライヤのカタログデータをバイヤのデータベースにダウンロード/格納する場合、「バイヤカタログ」という用語を用います。システム管理者は、特定のカタログアイテムを取得するか、またはサーバスクリプトを使ってサプライヤのカタログをダウンロードします（詳しくは、Peregrine Systemsまでお問い合わせください）。カタログデータがダウンロードされると、システム管理者はデータを分類し、AssetCenterデータベースに格納します。エンドユーザは、Get-Resources経由でカタログデータにアクセスします。バイヤカタログの利点と欠点は、以下の表のとおりです。



**利点**

ファイアウォールの後ろ側でショッピングが行われるため、ユーザはサプライヤサイトの性能に左右されることなく、ショッピングを行える

エンドユーザは、常に同じインタフェースを使用できる

バイヤは、エンドユーザに対して表示内容や購入内容を制御できる

**欠点**

バイヤはカタログ情報を管理するために、より一層の努力を払う必要がある

多数のオプションを含むアイテムや設定が複雑なアイテムをサポートできない

サプライヤがカタログを発行することを拒否するため、バイヤはサプライヤサイトにアクセスしなければならない場合がある

バイヤカタログは、以下のプロトコルのいずれかを使用します。

- CIF (Catalog Interchange Format) : Aribalにより開発されたプロトコルです。
- CUP (Catalog Update Package) : CommerceOneにより開発されたプロトコルです。
- CatalogUpates.xml : Peregrine Systemsにより開発されたプロトコルです。

Get2Connect.netは上記のプロトコルを標準化するため、Get-Resourcesはバイヤカタログを取得してAssetCenterに格納することができます。

カタログをダウンロードするには、「カタログアイテムの取得」方法または「サーバスクリプト」方法のいずれかを使用します。

 **注意:**

Get2Connect.net環境でカタログをダウンロード/サポートするには、Peregrine SystemsのProfessional Services Groupの協力が必要となります。

## 「カタログアイテムの取得」方法

サプライヤの中には、サプライヤサイトでカタログを保持する会社があります。しかし、バイヤ側で、エンドユーザがサプライヤサイトに直接アクセスすることを望まない場合もあります。この場合、バイヤは「カタログアイテムの取得」方法を使って、エンドユーザが選択するアイテムの内容を制約します。

Get-Resourcesの「カタログアイテムの取得」機能を使って、サプライヤサイトを参照してアイテムを取得してから、AssetCenterデータベースにインポートします（詳しくは「[B2Bサイトを管理する](#)」の章を参照してください）。

## 「サーバスクリプト」方法

Get2Connect.netがサポートし、AssetCenterデータベースにインポートできる形式でカタログを発行するサプライヤもあります。このようなサプライヤは、カタ

ログデータが以下のいずれかの形式を取るよう、Peregrine Systemsと協定を交わしています。

- Catalog Interchange File (CIF)
- ASCII、Excel、Access、dBASEまたはLotus 1-2-3などの区切り文字で区切られたファイル
- Catalog Update Package (CUP)

Get-ResourcesとGet2Connect.netはスクリプトポーリングを使って、自動的にカタログファイルを取得します。

「サーバスクリプト」方法でカタログをダウンロードするための詳細情報については、Peregrine Systemsまでお問い合わせください。

# 11 | 発注を理解する

エンドユーザが発注するアイテムを選択すると、Get-Resourcesは依頼を作成します。作成された依頼は、AssetCenterに保存されます。依頼が承認されると、AssetCenterで発注が作成され、Get2Connect.net経由でサプライヤに送信されます。（発注の自動作成用のワークフローとスクリプトについては、「[AssetCenterとGet-Resources](#)」の章を参照してください。）「[B2Bサイトを管理する](#)」の章では、発注の表示/管理方法が説明されています。本章では、発注の作成/送信プロセスについて説明します。

## 処理

各発注には、依頼番号、およびAssetCenterが作成する発注番号が割り当てられています。Get2Connect.netは、発注の形式をサプライヤが要求する形式に変換します。

まず、AssetCenterは発注を作成し、Get2Connect.netへの送信待ちキューに入れます。発注を送信する前に、Get-Resourcesは発注が有効/完全であるかどうか検証します（検証プロセスについては、「[発注の検証](#)」の節を参照してください）。発注がGet2Connect.netに送信されると、Get2Connect.netは発注をサプライヤへ転送します。この結果、発注ステータスを通知するメッセージが返されます。（発注ステータスについて詳しくは、本章の「[発注の検証](#)」の節を参照してください）。

Get2Connect.netは、電子メールまたはファックスを使って、発注をサプライヤに送信します。

## 発注の検証

Get-Resourcesは発注の妥当性を検証してから、Get2Connect.netに送信します。発注の検証プロセスでは、以下の条件が満たされているかどうか確認されます。

- 発注フィールドに値が入力されている。
- 少なくとも1つの発注明細が含まれている。
- サプライヤ名が入力されている。
- サプライヤのDUNS番号が入力されている。
- 依頼番号が入力されている。
- 依頼者の名前が入力されている。
- 配達先住所が入力されている。
- 請求先住所が入力されている。
- 各明細でサプライヤの参照番号が入力されている。
- 数量、価格、合計数が入力されている。
- 各発注明細の総額（数量 × アイテムの価格）が入力されている。
- 各明細の単位コードが入力されている。
- 発注総額（全明細の合計額）が入力されている。

上記の条件が満たされていない場合、発注ステータスは「Purchase Order Incomplete. Not sent（不完全な発注、未送信）」に設定されます。発注ステータスについて詳しくは、本章の「[ステータス](#)」の節を参照してください。発注ステータスの確認方法については、「[B2Bサイトを管理する](#)」の章を参照してください。

## 送信

発注の送信では、以下の事項を考慮に入れる必要があります。

- ドキュメント形式
- 送信方法
- キュー / 送信プロセス

## ドキュメント形式

Get-Resources経由で送信される発注は、XML形式を取っています。すべてのサプライヤがXMLドキュメントをサポートするとは限らないため、Get2Connect.netはXMLドキュメントをサプライヤが要求する形式（例：OBI、EDI 850）に変換します。

## 送信方法

Get2Connect.netは、HTTPSを使ってドキュメントを受信します。HTTPSは、ブラウザがデータ表示に使うHypertext Transfer Protocolの安全なバージョンです。ただしGet2Connect.netは、サプライヤの設備に応じて、電子メール、FTPまたはファックスで発注をサプライヤに送信することができます。

## キュー / 送信プロセス

Get-Resourcesは、スクリプトポーリングを使って、ドキュメントをキューに入れたり、送信したりします。スクリプトポーリングは、ドキュメントを自動的に送信したり、Get2Connect.netから取得たりするためのプロセスを実行します。例えば、「getwaitingdocs」スクリプトは、Get2Connect.netで待機中のXMLドキュメントを定期的に取得します。

## ステータス

発注がGet2Connect.netに送信されると、更新された発注ステータスがGet-Resourcesに返されます。以下の表は、発注ステータスとステータスの意味を示しています（Get-Resourcesを使って発注ステータスを確認する方法については、「[B2Bサイトを管理する](#)」の章を参照してください。）。

ステータスメッセージ	意味
Purchase Order Incomplete. Not sent (不完全な発注。未送信)	発注情報が不完全です。またはGet-Resourcesが正しく設定されていません。
Pending xmit to Get2Connect.net (Get2Connect.netへの送信待ち)	発注は、サプライヤへ送信されるまで待機状態となっています。
Error transmitting to Get2Connect.net (Get2Connect.netへの送信エラー)	ネットワーク接続で問題が発生しました。送信は再試行されます。
Accepted by Get2Connect.net (Get2Connect.netにより承認済)	発注は、Get2Connect.netでサプライヤへの送信待ちキューに入っています。
Successfully transmitted to the supplier (サプライヤへの送信成功)	サプライヤは発注を受信し、受信通知をGet2Connect.netに送信しました。このメッセージは、サプライヤが正式な受注を確認したことを示すものではありません。
Difficulty reaching supplier, still trying (サプライヤへのアクセスが困難。試行中です。)	サプライヤのWebサーバにアクセスできません。または、ファックスが使用中です。Get2Connect.netは、アクセスの試行を24時間続行します。試行後24時間経過すると、送信がキャンセルされます。
Transmission failed--[reason here] (送信に失敗--[理由])	送信エラーが発生しました。サプライヤがドキュメントを受信した上で拒否した場合、拒否理由が添付されることもあります。
Accepted by supplier (サプライヤ側で受注承認済)	サプライヤは受注を確認し、正式な受注確認メッセージをGet2Connect.netに返します。これは、サプライヤがバイヤの注文を受諾し、取引に合意することを意味します。

# 12 | ShopDirectを理解する

本章では、ShopDirectについて説明します。ShopDirectは、Peregrine Systemsが開発した調達メソッドです。Get2Connect.netプロトコルであるShopDirectは、バイヤとサプライヤ間の商取引を可能にします。

バイヤは、まずGet-Resourcesを使ってサプライヤサイトへ接続して、注文するアイテムを選択します。依頼が作成されると、承認プロセスが起動します。依頼の承認後、AssetCenterで発注が作成されます。サプライヤ側で、バイヤがサプライヤのカタログをダウンロードすることを許可しない場合、ShopDirectはサプライヤから商品を購入するための唯一の手段となります。

## ShopDirectを使う理由

サプライヤ企業の中には、カタログデータを完全に制御することを望む企業があります。このようなサプライヤは、Peregrine Systemsおよび Get2Connect.netと協定を交わして、バイヤがオンラインでサプライヤカタログにアクセスできるようにします。サプライヤは、バイヤに応じてカタログの内容を調整することもできます（例：特定の顧客用の商品、特定の商品の割引など）。

## 必要条件

ShopDirectを使用するには、インターネットへのアクセスと調達アプリケーション（例：Get-Resources）が必要となります。また、データを転送したり、サプライヤとバイヤの調達アプリケーションでサポート可能な形式にドキュメントを変換したりするために、Get2Connect.netのようなB2Bハブが必要です。サプライヤのサイトで、オンラインショッピングが可能であるかどうかを確認しなければなりません。

## ShopDirectプロセス

ShopDirectプロセスは、複数の段階で構成されています。

Peregrine Systemsは、まずGet2Connect.netとShopDirectをサポートするサプライヤと、契約を交わす必要があります。Peregrine Systemsは、Get2Connect.netがサプライヤの技術をサポートできるかどうか確認します。

### 注意:

Peregrine Systemsと契約を交わしていないShopDirectサプライヤを使うことを希望する場合、Get-Resourcesでこれを要請する必要があります。詳しくは、「[B2Bサイトを管理する](#)」の章を参照してください。

Peregrine Systemsがサプライヤと契約を交わした後、ユーザ企業はサプライヤに問い合わせて、B2Bサービスを使用するために必要な各手続きを行います（サプライヤのリストは、Peregrine Systemsから入手可能です）。

次に、Get-Resourcesを設定してサプライヤサイトにアクセスできるようにします。このためには、Get-ResourcesのB2B機能を使用します。設定プロセスでは、ユーザID、パスワード、サプライヤ固有の情報（例：MPID）を入力します。サプライヤの設定方法についての詳細は、「[B2Bサイトを管理する](#)」の章を参照してください。

## 典型的なShopDirectセッション

Get-Resources用にサプライヤが設定されると、ユーザはShopDirectサイトにアクセスして商品を依頼することができるようになります。ShopDirectセッションの概要は、以下のとおりです。

- 1 エンドユーザはGet-Resourcesを開き（Get-ResourcesはGet2Connect.netと連携します）、ShopDirectサプライヤを選択します。



- 2 Get2Connect.netは、ユーザのID情報をサプライヤに送信します。
- 3 サプライヤは、ShopDirectサイトで、バイヤ企業用にカスタマイズしたカタログ、または標準カタログを表示します。
- 4 エンドユーザがアイテムを選択すると、アイテムは仮想ショッピングカートに追加されます。ショッピングが終了すると、エンドユーザはショッピングセッションを終了します。
- 5 ユーザが選択したアイテムのカタログ情報（メーカ品番、価格、説明など）は、Get2Connect.netとGet-Resources経由でAssetCenterに転送されます。
- 6 依頼の承認プロセス。承認された依頼は、発注に変わります。発注はサプライヤに送信されます。
- 7 サプライヤは、発注の受信確認メッセージ、および正式な受注確認メッセージを、Get2Connect.netに送信します。Get2Connect.netはこれらのメッセージをバイヤに転送します。
- 8 サプライヤは注文品をバイヤに発送し、発送通知メッセージをGet2Connect.net経由でバイヤに送信します。

---

 **注意:**

エンドユーザがファイアウォールの後ろ側で、ショッピングを行うことを希望する場合、ShopDirectサイトからカタログアイテムを取得 / ダウンロードしてAssetCenterに格納することもできます。この方法については、Peregrine Systemsまでお問い合わせください。

---



# 13 | B2B環境を設定する

Get-ResourcesのB2Bサービスへの接続を設定するには、本章で説明する2つの手順に従う必要があります。設定作業を行う前に、以下のタスクが完了しているかどうか確認してください。

- Get-Resourcesをインストールする。
- Get-ResourcesのB2Bモジュールを使用するためにPeregrine Systemsと契約を交わし、必要な手続きを行う。
- 取引相手となるサプライヤを選択する（Peregrine Systemsは、企業のニーズに合う最適なサプライヤを選ぶお手伝いをします）。
- サプライヤと契約を交わす。契約手続きが済むと、パイヤ企業は、ユーザID、パスワード、サプライヤに固有の情報（MPID番号など）などを、サプライヤから受け取ります。

本章では、Get-ResourcesのB2Bサービスへの接続の設定作業について説明します。

- Get-ResourcesのB2Bサービスへの登録方法については、「[Get-ResourcesのB2Bサービスに登録する](#)」の節を参照してください。
- サプライヤが使用する請求先住所と連絡先情報を指定する方法については、「[請求先住所および連絡先情報を設定する](#)」の節を参照してください。

 注意:

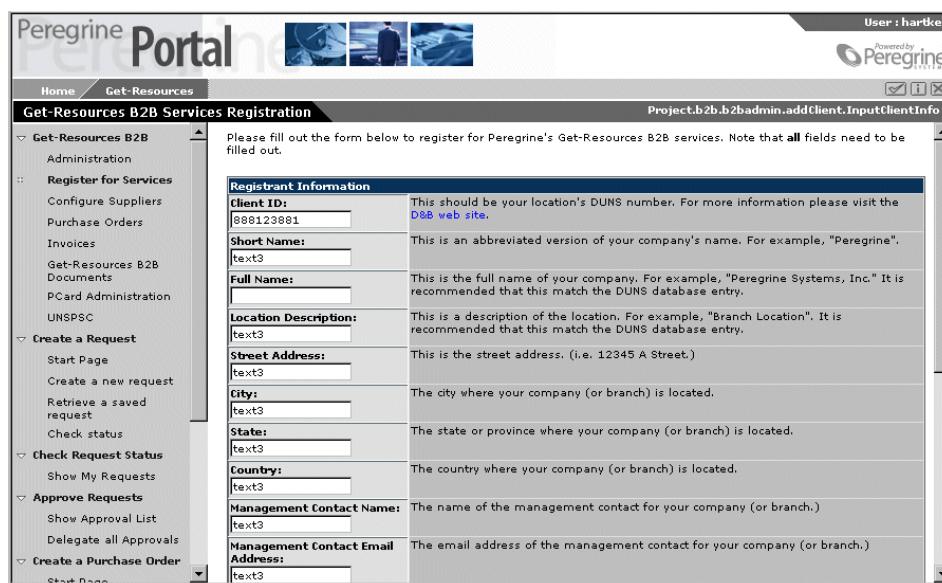
以下で行う作業のインターフェースは、お使いのGet-Resourcesバージョンによって異なる可能性があります。

## Get-ResourcesのB2Bサービスに登録する

Peregrine Systemsから提供されたURLを入力すると、Get-ResourcesのB2Bサービスに登録することが可能になります。

- 1 **[ログイン]** ページで、管理者としてGet-Resourcesにログインします。
- 2 Get-Resourcesのホームページで、**[Get-Resources B2B]** アイコンをクリックします。
- 3 左枠の**[Get-Resources B2B]** メニューで、**[サービスへの登録]** をクリックします。  
**[Get-Resources B2Bサービスへの登録]** ページが表示されます。

図 13.1. B2Bサービスへの登録用ページ



Peregrine Portal

User: hartke

Home Get-Resources

Get-Resources B2B Services Registration Project.b2b.b2badmin.addClient.InputClientInfo

Get-Resources B2B Administration Register for Services Configure Suppliers Purchase Orders Invoices Get-Resources B2B Documents PCard Administration UNSPSC Create a Request Start Page Create a new request Retrieve a saved request Check status Check Request Status Show My Requests Approve Requests Show Approval List Delegate all Approvals Create a Purchase Order Start Page

Please fill out the form below to register for Peregrine's Get-Resources B2B services. Note that **all** fields need to be filled out.

Registrant Information	
<b>Client ID:</b>	This should be your location's DUNS number. For more information please visit the <a href="#">D&amp;B web site</a> .
888123881	
<b>Short Name:</b>	This is an abbreviated version of your company's name. For example, "Peregrine".
text3	
<b>Full Name:</b>	This is the full name of your company. For example, "Peregrine Systems, Inc." It is recommended that this match the DUNS database entry.
text3	
<b>Location Description:</b>	This is a description of the location. For example, "Branch Location". It is recommended that this match the DUNS database entry.
text3	
<b>Street Address:</b>	This is the street address. (i.e. 12345 A Street.)
text3	
<b>City:</b>	The city where your company (or branch) is located.
text3	
<b>State:</b>	The state or province where your company (or branch) is located.
text3	
<b>Country:</b>	The country where your company (or branch) is located.
text3	
<b>Management Contact Name:</b>	The name of the management contact for your company (or branch.)
text3	
<b>Management Contact Email Address:</b>	The email address of the management contact for your company (or branch.)
text3	

- 4 このページのフィールドに値を入力してから、**【保存】** ボタンをクリックします。

「Get-Resources B2Bサービスへの登録に成功しました。次に、Get-Resources B2Bの**【サプライヤの設定】**アプリケーションを実行してください。」というメッセージが表示されます。直ちにサプライヤを設定する場合は、「**B2Bサイトを管理する**」の章を参照してください。請求情報または連絡先情報を追加する場合は、次節を参照してください。

## 請求先住所および連絡先情報を設定する

Get-Resourcesでは、サプライヤに送信されるデフォルトの請求先住所、および連絡先情報を変更することができます。

### 請求先住所を設定 / 変更するには、以下の手順に従います。

- 1 Get-Resourcesのホームページで、**【Get-Resources B2B】** アイコンをクリックします。  
**【請求の設定】** ページが開きます。このページでは、現在のデフォルトの請求先住所と連絡先情報が表示されます。請求先住所と連絡先情報が既に選択されていない場合、フィールドは空欄になっているはずですが。
- 2 請求先住所を追加または変更するには、**【場所】** フィールドの隣にある拡大鏡アイコンをクリックします。  
**【検索】** ページが表示されます。このページには、検索フィールドと選択可能な場所のリストが表示されます。
- 3 住所（またはサイト / 市町村）を入力してから、**【検索】** をクリックします。  
AssetCenterデータベースの場所リストが表示されます。
- 4 希望する場所をクリックします。  
**【検索】** ページが閉じられると、新たに選択された情報がデフォルトの請求先住所のフィールドに表示されます。

### 連絡先を変更するには、以下の手順に従います。

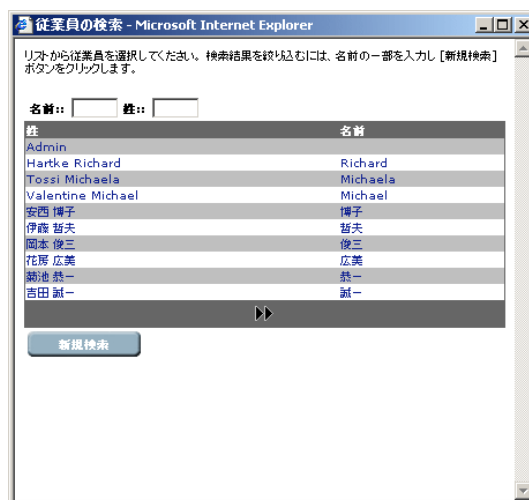
- 1 Get-Resourcesのホームページで、**【Get-Resources B2B】** アイコンをクリックします。

【請求の設定】ページが開きます。このページでは、現在のデフォルトの請求先住所と連絡先情報が表示されます。請求先住所と連絡先情報が既に選択されていない場合、フィールドは空欄になっているはずですが。

- 2 【連絡先】フィールドの隣にある拡大鏡アイコンをクリックします。連絡先レコードを検索するには、「従業員の検索」機能を使用します。

【従業員の検索】ページが表示されます。

図 13.2. 【従業員の検索】ページ



- 3 リストから名前を選択するか、または検索フィールドに従業員の名前または姓を入力してから【検索】をクリックします。

リストから従業員を選択すると、【従業員の検索】ページが閉じられます。新たに選択された情報が連絡先情報のフィールドに表示されます。

- 4 特定の従業員を検索する場合は、検索結果のリストで希望する従業員の名前をクリックします。

連絡先情報が連絡先情報のフィールドに表示されます。

- 5 【請求の設定】ページで【送信】ボタンをクリックして情報を更新します。次に【ホーム】ボタンをクリックして、ホームページに戻ります。

# 14 | B2Bサイトを管理する

Get-Resourcesでは、B2Bサイトを完全に管理することができます。本章では、以下の操作の実行方法を説明します。

- サプライヤへのアクセスを設定するには、本章の「**ShopDirect用にサプライヤを設定する**」の節を参照してください。
- パスワードを変更する、またはサプライヤサイトへのアクセスを削除するには、本章の「**ShopDirectサイトへのアクセスを変更または削除する**」の節を参照してください。
- Get-ResourcesのB2Bサービスにサプライヤを追加するようPeregrine Systemsに要請する方法については、本章の「**新しいサプライヤサイトを要求する**」の節を参照してください。
- カタログアイテムを取得/ダウンロードするには、本章の「**カタログを取得/ダウンロードする**」の節を参照してください。
- 発注ステータスを確認し、発注の詳細情報を参照するには、本章の「**発注を使用する**」の節を参照してください。
- 請求書や発注ステータスの通知などのその他のドキュメントをトラッキングするには、本章の「**B2Bドキュメントをトラッキングする**」の節を参照してください。
- サプライヤが使用する請求先住所と連絡先情報を指定する方法については、「**B2B環境を設定する**」の章を参照してください。

## ShopDirect用にサプライヤを設定する

B2Bサービスに登録し、サプライヤと契約を交わした後、バイヤは新規サプライヤをShopDirectサイトに追加することができます。

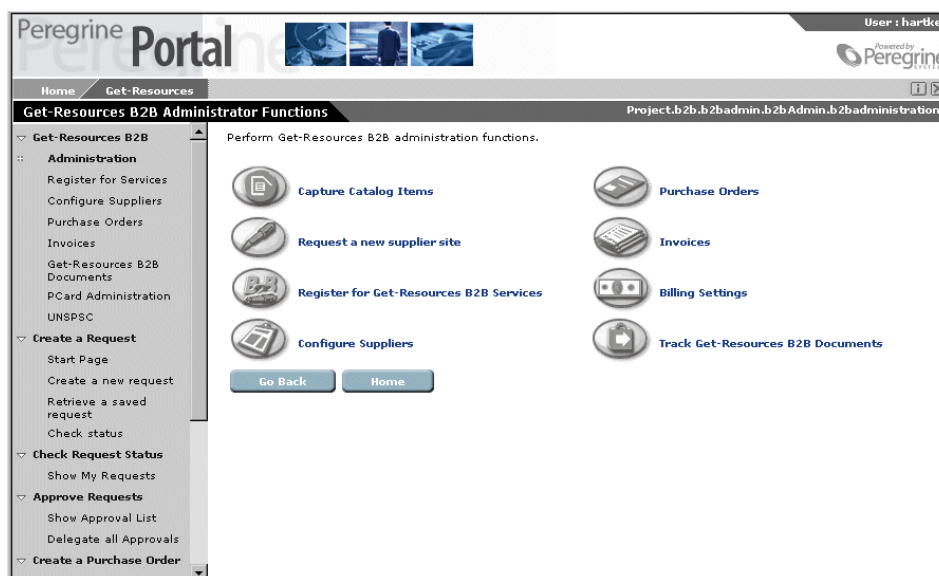
### 注意:

以下で行う作業のインターフェースは、お使いのGet-Resourcesバージョンによって異なる可能性があります。

以下の操作では、サプライヤから受け取ったユーザIDやパスワードなどの情報が必要となります。

## サプライヤを設定するには、以下の手順に従います。

- 1 Get-Resourcesのホームページで、【 Get-Resources B2B 】アイコンをクリックします。  
【 Get-Resources B2B Administrator Functions ( Get-Resources B2Bの管理機能) 】ウィンドウが表示されます。



- 2 【 Configure Suppliers ( サプライヤの設定) 】アイコンをクリックします。



- 3 [ Select Activity (アクティビティの選択) ] で、 [ Add a new B2B Site (新しいB2Bサイトの追加) ] をクリックします。  
 [ Choose Supplier (サプライヤの選択) ] ページが表示されます。このページでは、Get-ResourcesのB2B環境で機能するように設定されたサプライヤの一覧が表示されます。
- 4 サプライヤと連絡を取るには、サプライヤの名前をクリックします。
- 5 次に開くページで、自分のユーザIDとパスワードを入力してから、 [ Submit Request (依頼の送信) ] をクリックします。

Peregrine Portal

Home Get-Resources

Setup data for Dell CBL PO Gateway

Please enter your User ID and Password in the form below.

B2BDirect User ID:

B2BDirect Password:

B2BDirect Password Confirmation:

Submit Request Go Back Home

- [ Supplier Update Result (サプライヤの更新結果) ] ページが開き、確認メッセージが表示されます。
- 6 [ Home ] ボタンをクリックして、Get-Resourcesのホームページに戻ります。

## ShopDirectサイトへのアクセスを変更または削除する

Get-Resources用にサプライヤが設定されると、ユーザはユーザID / パスワードを変更したり、サプライヤサイトへのアクセスを削除したりできるようになります。

## ShopDirectサイトへのアクセスを変更するには、以下の手順に従います。

- 1 Get-Resourcesのホームページで、【 Get-Resources B2B 】アイコンをクリックします。
- 2 【 Configure Suppliers (サプライヤの設定) 】をクリックします。
- 3 【 Select Activity (アクティビティの選択) 】で、【 (B2Bサイトへのアクセスの削除/変更) 】をクリックします。  
設定されたサプライヤのリストが表示されます。
- 4 アクセスを変更するサプライヤの名前をクリックします。
- 5 次のページでユーザIDとパスワードを入力してから、【 Modify Entry (変更) 】をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。
- 6 サイトへのアクセスを削除するには、【 Remove Site Access (サイトへのアクセスの削除) 】をクリックします。  
「 Access to [supplier site] has been removed ( [ サプライヤサイト ] へのアクセスが削除されました ) 」というメッセージが表示されます。
- 7 【 Home 】ボタンをクリックして、Get-Resourcesのホームページに戻ります。

## 新しいサプライヤサイトを要求する

Get2Connect.net経由で使用不可能なサプライヤのShopDirectサイトにアクセスすることを希望する場合、Peregrine Systemsがサプライヤと契約を結ぶよう要請することができます。

## 新しいサプライヤサイトを要求するには、以下の手順に従います。

- 1 Peregrineポータルで、【 Get-Resources B2B 】アイコンをクリックします。
- 2 【 Get-Resources B2B Administrator Functions (Get-Resources B2Bの管理機能) 】で、【 Request a new supplier site (新規サプライヤサイトを要求する) 】をクリックします。

[ Request a New Supplier Site (新規サプライヤサイトを要求する) ] ページが表示されます。

このページの指示に従って、必要情報を入力します。

- 必要情報を入力し終わったら、[ Submit Request (依頼の送信) ] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

- [ Home ] ボタンをクリックして、Get-Resourcesのホームページに戻ります。バイヤ企業が新規サプライヤを要求すると、Peregrine SystemsのB2B管理者はサプライヤに連絡を取って、ShopDirectサイトのURLを受け取り、リンクをテストします。この結果、バイヤ企業はGet-Resourcesでサプライヤを追加できるようになります。

## カタログを取得 / ダウンロードする

カタログをAssetCenterデータベースに格納する手段は複数あります。エンドユーザに対して、選択可能なアイテムを制約する場合、ShopDirectサイトからカタログアイテムを取得 / 格納する手段が、最も適当であるといえます。(カタログについての詳細は、「[カタログを理解する](#)」の章を参照してください)。

## カタログアイテムを取得 / ダウンロードするには、以下の手順に従います。

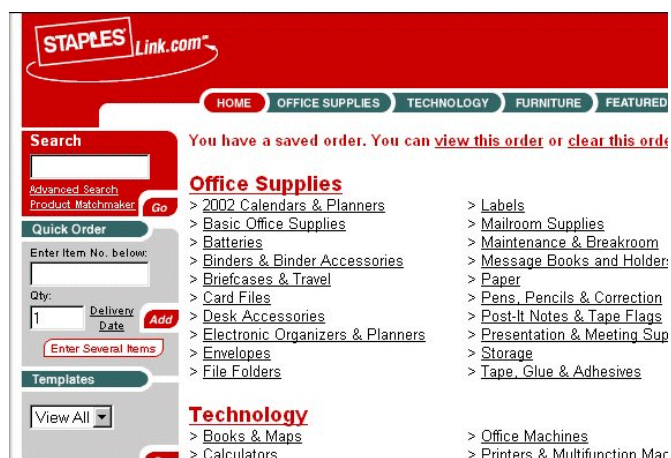
- 1 Get-Resourcesのホームページで、[ Get-Resources B2B ] アイコンをクリックします。
- 2 [ Get-Resources B2B Administrator Functions ( Get-Resources B2Bの管理機能) ] で、[ Capture Catalog Items (カタログアイテムの取得) ] をクリックします。

次に開くページでは、ShopDirectアクセス用のサプライヤが表示されます。

- 3 サプライヤ名をクリックします。

サプライヤのShopDirectサイトが開きます。

以下では、Staples社のShopDirectサイトを例に取り上げています。



- 4 ShopDirectページのリンクを使って、アイテムの取得を開始します。  
サプライヤサイトによって、アイテムの取得方法は異なります。一般的には、オンラインショッピングの手順に類似する方法で、アイテムを取得できます。取得されたアイテムは、AssetCenterデータベースにインポートされます。エンドユーザは、インポートされたアイテムの中から、希望するものを選択します。
- 5 カテゴリと認証を設定します。  
ここでは、アイテムの分類カテゴリを指定します。また、アイテムの受領時に、AssetCenterで作成される資産（またはポートフォリオ品目）の種類も指定します。

**注意:**

デフォルトの認証設定は、ShopDirectです。ただしユーザは、「ShopDirect」設定のアイテムをカタログで参照することはできません。

- 6 【Update (更新)】をクリックして、アイテムをカタログに格納します。

## 発注を使用する

Get-Resourcesでは、発注のステータスと詳細情報を確認することができます。特定の発注1件を検索したり、処理中の全発注の一覧を表示したりすることが可能です。

### 発注を表示するには、以下の手順に従います。

- 1 Get-Resourcesのホームページで、【Get-Resources B2B】アイコンをクリックします。
- 2 【Get-Resources B2B Administrator Functions (Get-Resources B2Bの管理機能)】で、【Purchase Orders (発注)】をクリックします。  
【Search for Purchase Orders (発注の検索)】ページが表示されます。

The screenshot displays the 'Search for Purchase Orders' page in the Peregrine Portal. The page header includes the 'Peregrine Portal' logo and the user 'User: hardke'. The main content area is titled 'Search for Purchase Orders' and contains a search form with the following fields:

- Number:
- Between this Start Date: Jun 17 2002
- and this End Date: Jun 17 2002
- Status:
- Type:

Buttons for 'Search' and 'Home' are located below the search fields. A left-hand navigation menu lists various options under 'Get-Resources B2B', including 'Purchase Orders', 'Invoices', and 'Create a Request'.

- 3 このページのフィールドを使って検索結果を絞り込みます。検索する発注に関する情報を入力してから、【 Search (検索) 】をクリックします。このページのフィールドを空欄のままにして【 Search 】をクリックすると、すべての発注が表示されます。

検索結果が【 Purchase Orders (発注) 】ページに表示されます。

- 4 特定の発注の詳細を表示するには、リスト内で発注をクリックします。
- 5 終了したら、【 Home 】ボタンをクリックします。

#### 注意:

発注ステータスは、Get-ResourcesのB2Bサービスで頻繁に更新されています。【 Refresh (更新) 】ボタンをクリックすると、ステータスが更新されたかどうか確認できます。長時間経過しても発注ステータスが変わらない場合、AssetCenterの【 サプライヤ 】テーブルの【 Get2Connect.netの使用 】フィールドが、【 はい 】に設定されているかどうか確認してください。

## 請求書を使用する

Get-Resourcesでは、請求書のステータスと詳細情報を確認することができます。特定の請求書1件を検索したり、処理中の全請求書の一覧を表示したりすることが可能です。

### 請求書を表示するには、以下の手順に従います。

- 1 Get-Resourcesのホームページで、【 Get-Resources B2B 】アイコンをクリックします。
- 2 【 Get-Resources B2B Administrator Functions (Get-Resources B2Bの管理機能) 】で、【 Invoices (請求書) 】をクリックします。

[ Search for Invoices (請求書の検索) ] ページが表示されます。

3 このページのフィールドを使って検索結果を絞り込みます。検索する請求書に関する情報を入力してから、[ Search (検索) ] をクリックします。このページのフィールドを空欄のままにして [ Search ] をクリックすると、すべての請求書が表示されます。

検索結果が [ Invoice (請求書) ] ページに表示されます。

- 4 特定の請求書の詳細を表示するには、リスト内で請求書をクリックします。
- 5 終了したら、[ Home ] ボタンをクリックします。

## B2B ドキュメントをトラッキングする

発注に限らず、請求書やカタログ更新のメッセージなどのその他のドキュメントを参照するには、「B2Bドキュメントのトラッキング」機能を使用します。

- 1 Get-Resourcesのホームページで、[ Get-Resources B2B ] アイコンをクリックします。
- 2 [ Get-Resources B2B Administrator Functions (Get-Resources B2Bの管理機能) ] で、[ Track Get-Resources B2B Documents (Get-Resources B2Bドキュメントのトラッキング) ] をクリックします。

[ Search Document History (ドキュメント履歴の検索) ] ページが表示されます。

The screenshot shows the 'Search Document History' page in the Peregrine Portal. The page title is 'Search Document History' and the user is 'hardke'. The page contains a search form with the following fields:

- Between this Start Date: Jun 17 2002
- and this End Date: Jun 17 2002
- Document Type: -- Select a Document Type
- Maximum Documents to Return: [ ]
- Document Tag: -- Select a Document Tag
- Tag Value: [ ]

There are 'Search' and 'Home' buttons at the bottom of the form. A navigation menu is visible on the left side of the page, listing various options such as 'Get-Resources B2B Administration', 'Create a Request', and 'Check Request Status'.

- 3 同ページのフィールドを使って検索結果を絞り込んだ後、[ Search (検索) ] をクリックします。
- 4 表示されるドキュメントのリスト内で、ドキュメントをクリックして詳細を表示します。作業を終了するには、[ Administration (管理) ] リンクをクリックします。



# 15 | よく寄せられる質問

本章では、B2B通信に関してGet-Resources管理者からよく寄せられる質問に対する回答をまとめています。

## 「プロトコル」とは何ですか。

プロトコルとは、プロセスの規約の集合のことを指します。Get2Connect.netの場合、B2Bプロトコルは多数の要素から構成されています。ここでは、4つの要素を例に取り上げます。

- トランスポート方法（例：HTTP、HTTPS、SMTP）。トランスポート方法は、システム間におけるデータの送信方法を定義します。
- エンベロープ技術（例：MIME）。システム間で情報を送信する際に、情報がどのようにカプセル化されるのかを定義します。
- ドキュメントタイプ：システム間で送信可能なドキュメントの種類を定義します。例えばB2Bプロトコルは、発注および請求書の送信を許可しますが、B2B取引に無関連なドキュメントの送信は許可しません。
- セキュリティ技術：セキュリティオプションは、データの暗号化 / 認証方法を定義します（例：システム間におけるデータ送信の場合）。

## Get2Connect.netは、発注の変更をサポートしますか。

いいえ。これは、Get2Connect.netの性能によるのではなく、サプライヤのプロトコルが、発注の変更をサポートできないためです。将来的には、Get2Connect.netで発注の変更をサポートすることが可能になるかもしれません。

## 発注を送信するには、AssetCenterとGet-Resourcesのどちらを使用すべきですか。

Get-Resourcesを使ってすべてのB2Bタスク（発注の送信 / 承認も含む）を実行するようお勧めします。AssetCenterを使用すると、発注の情報が不正確にマッピングされる恐れがあります。

## ユーザがアイテムを発注すると、AssetCenterの [製品] テーブルは更新されますか。

はい、更新されます。依頼 / 発注を作成するには、アイテムが [製品] テーブルに存在していなければなりません。

## Get-Resourcesでは、UNSPSCコードはサポートされていますか。

はい。バージョン2.0（またはバージョン1.3のサービスパック2）以降のGet-Resourcesでは、UNSPSCコードを特定のカテゴリにマッピングすることができます。

## CommerceOneとの統合は、どのように行われていますか。

Get2Connect.netは、CommerceOneを使って構築されたマーケットサイトと連携します。このようなマーケットサイトは、Get2Connect.netまたはAriba Commerce Services Networkに類似する、中間ネットワークです。

Get-Resourcesのカスタムユーザがマーケットサイトに登録すると、Get-ResourcesとGet2Connect.netを使って、CommerceOne BuySiteを使用するのと全く同様に、マーケットサイトと取引を行うことができます。

## SupplyAccessとの統合は、どのように行われていますか。

SupplyAccessは、Peregrine Systemsのパートナー企業であるアプリケーションサービスプロバイダ（ASP）です。調達アプリケーションを自サイトでホストすることを望まない企業を対象に、調達ソリューションを提供します。SupplyAccessのWebサイトを使うと、ユーザは複数の再販業者が提供するIT機器の価格を比較することができます。Get-Resourcesでは、Get2Connect.netのShopDirect機能を使って、SupplyAccessにアクセスできます。

## Get-Resourcesは、マーケットサイトのカタログデータへどのようにアクセスしますか。

Get-Resourcesは、2とおりの方法でカタログデータを取得します。1つ目の方法では、マーケットサイトのカタログデータファイルがGet2Connect.netのサーバにダウンロードされるよう、Peregrine Systemsが手配します。カタログはXML形式に変換され、HTTPSを使ってバイヤ企業のGet-Resourcesへ転送されます。

2つ目の方法は、1つまたは複数のサプライヤがRoundTripをサポートすることを前提としています。Get-Resourcesは、ShopDirect機能を使って、Get2Connect.net経由でサプライヤにアクセスします。

いずれのショッピング方法を使用するにせよ、承認された依頼は発注に変換され、HTTPSを使ってGet2Connect.netへ送信されます。Get2Connect.netは、Get-Resourcesを各段階で常に更新します。

### 「Ariba対応サプライヤ」とは何ですか。

「Ariba対応サプライヤ」とは、「cXML対応サプライヤ（cXMLをサポートするサプライヤ）」のことを指します。この種のサプライヤの場合、cXMLドキュメントはAribaネットワークを経由する必要があると誤解されがちです。しかし、Get2Connect.netはcXML対応サプライヤのドキュメントをサポートします。

## Get-Resourcesは、特定の間隔でGet2Connect.netからカタログデータを取得しますが、最適な間隔はどの程度ですか。

毎日更新するようお勧めします。バイヤ企業が更新情報を重視する度合に応じて、更新間隔を決めます。

## カタログを1日1度更新すると、パフォーマンスに影響が出るのではないのでしょうか。

Get2Connect.netは、カタログ全体ではなく、変更事項のみを送信します。営業時間外に更新を実行するよう設定することをお勧めします。

## カタログ統合は、どのように処理されますか。

カタログの統合は、B2Bシステムの導入で最も困難な作業です。Peregrine Systemsは、非常に柔軟なカタログの統合プロセスを提供しており、低コストでしかも迅速にベンダを統合することを可能にします。ベンダは、特別な標準を導入したり、新しいシステムまたは技術に投資する必要がありません。Peregrine Systemsのプロセスは、既存のインフラストラクチャや通信方法をそのままサポートします。HTTP、SMTPやFTPなどのすべての通信標準をサポートします。

## 承認ワークフローは、どのように設定すべきですか。

承認ワークフローは、できる限り簡素に設計するようお勧めします。一般的に、依頼者のレベル、製品の種類、および依頼の総額に応じて、数個の規則を設定するよう推奨しています。下層部の従業員の場合、上層部の従業員と比べると低額な依頼に対して、マネージャの承認が必要となります。また、高額な依頼の場合、下層部の従業員は2人目の承認者からも、承認を受ける必要があります。例えば、事務員を例に取り上げます。依頼の総額が5万円以下である場合、承認を受ける必要はありません。依頼の総額が5万円を超える場合、上司から承認を受ける必要があります。依頼の総額が15万円を超える場合、事務員の上司の上司が依頼を承認しなければなりません。

また、Peregrine Systemsは職務別承認を実施するようお勧めします。IT機器やオフィス家具など、特定の職務で必要となる製品の場合、特定の部署が依頼を承認します。一般的に、上司の承認の後に、職務別承認を実行するようお勧めします。これにより、事務手続きを軽減することが可能になります。

## 従業員がすべてのアイテムを選択できるように設定すべきですか。それとも一般的な名称を使用すべきですか。

これは、製品の種類によります。事務用品やその他の一般的な製品の場合、全ユーザが標準カタログアイテムを参照できるように設定します。事務用品カタログ全体ではなく、企業が頻繁に使用する一般的なアイテムをおおよそ200件表示できるようにします。パイアカタログを使用するよう推奨します。またPeregrine Systemsは、より広範囲の事務用品カタログ用のShopDirectアクセスを、数人の管理者に付与します。一般従業員は、Get-Resourcesでカタログ外の依頼を作成します。次にこの依頼は、ShopDirectを使って事務用品カタログ全体を参照できる管理者に転送されます。管理者は、従業員のために依頼品を購入します。

IT機器や家具などの複雑な製品の場合、既定のセット商品を作成するようお勧めします。例えば、販売員は販売員用のノートパソコン、または販売員用の椅子を選択できるように設定します。このような総称的な依頼は、特定の製品にリンクされており、自動的に発注されます。あるいは、職務別の承認者が、依頼を編集して特定の製品を選択します（内部カタログまたはShopDirectカタログを使用する）。

## 承認作業は、特定のユーザに割り当てるべきですか。それともグループに割り当てるべきですか。

マネージャ（上司）の承認と財務承認は特定の個人に割り当てるのに対し、職務別の承認（例：ITスペシャリストによる承認）はグループに割り当てるようお勧めします。この結果、職務レベルの承認プロセスを加速することができます。

## ERPシステムなどのサードパーティのアプリケーションは、どのように統合されますか。

サードパーティのアプリケーションを統合する方法は複数あります。最も一般的な方法では、バッチインポート/エクスポートのプログラム、またはEnterprise Application Integration (EAI) を使用します (例: NEON、Vitria、またはActive Software)。

簡単な統合の場合、Peregrine Professional Servicesまたは公認ソリューションパートナーが、Get-Resources とサードパーティ製品間の、バッチインポート/エクスポートのルーチンをカスタマイズすることができます。

複雑な統合の場合、EAIベンダの製品を使います。データは、XMLドキュメントとして、HTTP経由でGet-Resourcesからサードパーティシステムへ送信されます。EAI製品には、サードパーティ製品へのゲートウェイが搭載されており、XMLドキュメントをサードパーティ製品の形式に変換して送信します。Peregrine Systemsの特定の製品では、MQ Seriesを基盤とするEAI製品を統合することが可能です。

Peregrine Professional Servicesまたは公認ソリューションパートナーは、最適な統合方法をお手伝いします。

## プロセスフローはどのように設計するべきですか。

B2Bサイクルは、以下の段階で構成されています。

- 1 ユーザ認証
- 2 製品の選択
- 3 承認サイクル
- 4 発注の作成
- 5 発注の送信
- 6 一般的な帳簿記入
- 7 製品の受領 (受取りセンタ)
- 8 エンドユーザによる検証
- 9 請求書の受領
- 10 発注 / 請求書の照合
- 11 支払

ユーザのID情報および組織階層は、人事管理データベースまたはLDAPディレクトリで管理されます。この管理システムは、インポート/エクスポートバッチまたはEAIベンダ製品 (MQ Seriesをサポートする) を使って、Get-Resourcesのユーザディレクトリに統合されます。

カタログはGet-Resourcesで管理され、Get-Resourcesのユーザ権限に応じて特定のカタログビューが表示されます。ユーザが製品を選択すると、Get-Resourcesのワークフローエンジンは承認プロセスを起動します (階層はGet-Resourcesに格

納されていますが、階層の管理は、人事管理システムまたはLDAPシステムで行われます)。承認作業が終了すると、Get-Resourcesは依頼を発注に変換します。Get-Resourcesは、ERPまたは購買システムから一定範囲の発注番号を受け取り、発注に発注番号を割り当てます。一年分の発注用に、特定範囲の発注番号をあらかじめ確保しておくようお勧めします。この結果、発注番号のためのみに、2つのシステムを同期する手間が省けます。例えば、Get-Resourcesで1万件の発注が作成されると予測する場合、購買システムは、発注番号「1」から「10,000」までをGet-Resources用にあらかじめ確保しておきます。Get-Resources以外のシステムで作成される発注の発注番号は、「10,001」から始まります。

Get-Resourcesは、発注をGet2Connect.netへ送信します。Get2Connect.netは、発注をサプライヤに自動的/電子的に送信し、ベンダから確認メッセージ、発送通知、および請求書を受信します。これらのドキュメントは、Get-Resourcesで表示するか、または追加のワークフロープロセスを起動します(例:技術者が受領品を設置するようスケジュールする、自動的に発注と請求書を照合する、など)

発注が作成されると、Get-Resourcesは発注情報をERP/購買/財務システムへ送信して、一般的な経理システムを更新します(インポート/エクスポートバッチ、またはEAI製品を使う)。

注文品が納品されると、Get-Resourcesで受領作業を実行します。Get-Resourcesを使うと、より詳細な情報(特に、トラッキングが必要なライフサイクル資産の場合)を記録できます。受領時に支払が許可されると、Get-Resourcesは注文品の受領を支払システムに通知します。もう一つの方法として、エンドユーザがGet-Resourcesで受領品を検収する際に、通知を実行することも可能です。もしくは、発注と請求書の照合(Get-Resourcesまたは財務システムを使う)が行われた時点で、通知を実行することもできます。ただし、請求書の受領作業は、Get-Resourcesで実行すべきです。Get2Connect.netが自動的に送信する請求書は、Get-Resourcesで照合されます。

通知後、財務システムは支払を行います。支払プロセスの大部分は、Get-Resourcesで実行します。

## 人事管理システム、購買システム、および財務システムをどのように統合するべきですか。

システムの洗練度に応じて、次の2つの方法のいずれかを使用するようお勧めします。簡素なシステムの場合、Peregrine Professional Servicesがデータ交換用に、バッチインポート/エクスポートのプログラムを作成することができます。複雑な統合の場合、MQ SeriesをサポートするEAIベンダを使用するようお勧めします。



### **企業固有のワークフロー製品を使用することはできますか。**

可能ですが、Peregrine Systemsはこれを推奨しません。統合作業が追加される上、コストの増加やソリューションの複雑化を招く原因となります。

### **バイヤ企業のシステムを使って、発注の作成、注文品の受領、または照合などの作業を行うことは可能ですか。**

可能ですが、Peregrine Systemsはこれを推奨しません。Get2Connect.net経由で電子文書を送信 / 受信する意味がなくなります。データ入力を手動で実行したり、発注の送信や製品の受領を手動で実行したりすることになり、コストが増加します。

### **バイヤ企業のERPカタログシステムで、カタログを管理することはできますか。**

可能ですが、Peregrine Systemsはこれを推奨しません。バイヤ企業は、カタログを受信するために、ベンダへの電子リンクを独自に確立することになります。Get2Connect.netでは、このプロセスは自動化されています。Get2Connect.netを使ってベンダへのアクセスが確立され、カタログはGet-Resourcesで自動的に更新されます。









August 8, 2002